

講義コード	U350100101	科目ナンバリング	035A101
講義名	コミュニケーション演習(初級)1A		
副題	Studio 21 (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1		
担当者名	BAUER, Lars		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 1時限 対面授業		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、都市の紹介、アポをとる、道案内など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気、健康)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, wohin)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 1: カフェでの会話;平叙文と疑問文
第4回	Lektion 2: 教室での会話;単数形と複数形
第5回	Lektion 2: 教室での会話;定冠詞と不定冠詞、haben
第6回	Lektion 3: 国と都市;方角の表現
第7回	Lektion 3: 国と都市;seinの過去形、言語の名前
第8回	Lektion 4:人と住居;住居の描写
第9回	Lektion 4:人と住居;4格、所有冠詞、形容詞
第10回	Lektion 5: 時間の表現; 一日の予定、時刻
第11回	Lektion 5: 時間の表現; 分離動詞、habenの過去形
第12回	Lektion 6: 場所の表現: 道案内、3格
第13回	Lektion 6: 場所の表現: 建物の中の案内、序数
第14回	学期末試験
第15回	到達度確認と一学期の振り返り
第16回	一学期の復習
第17回	Lektion 7: 職業と活動: 職業の言い方、話法の助動詞(können, müssen)
第18回	Lektion 7: 職業と活動: 活動の言い方、所有冠詞の4格
第19回	Lektion 8: ベルリン: 道案内、3・4格支配の前置詞
第20回	Lektion 8: ベルリン: 遠足のプラン、話法の助動詞(wollen)
第21回	Lektion 9: 休暇: 休暇について話す、現在完了形(haben支配)
第22回	Lektion 9: 休暇: 事故の描写、現在完了形(sein支配)
第23回	Lektion 10: 飲食: 食料品の買い物、定冠詞類(welch-)
第24回	Lektion 10: 飲食: 食事の好み、比較級・最上級
第25回	Lektion 11: 衣服と天気: 衣服と色、形容詞の4格
第26回	Lektion 11: 衣服と天気: 天気予報、非人称表現(es)、話法の助動詞(mögen)
第27回	Lektion 12: 身体と健康: 症状を言う、命令形、話法の助動詞(dürfen)
第28回	Lektion 12: 身体と健康: スポーツについて話す、感情を表現する、人称代名詞の4格
第29回	学年末試験
第30回	到達度確認と一年間の振り返り

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2と同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法(対面授業の場合)

パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染状況により、遠隔授業にせざるを得ない場合は、同時配信型(Zoom使用)で、主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMSを使用して、フィードバックします。

教科書

- Studio 21 (A1.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Glossar, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350100102	科目ナンバリング	035A101
講義名	コミュニケーション演習(初級)1B		
副題	Studio 21 (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1		
担当者名	BAUER, Lars		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 対面授業		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、都市の紹介、アポをとる、道案内など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気、健康)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, wohin)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 1: カフェでの会話;平叙文と疑問文
第4回	Lektion 2: 教室での会話;単数形と複数形
第5回	Lektion 2: 教室での会話;定冠詞と不定冠詞、haben
第6回	Lektion 3: 国と都市;方角の表現
第7回	Lektion 3: 国と都市;seinの過去形、言語の名前
第8回	Lektion 4:人と住居;住居の描写
第9回	Lektion 4:人と住居;4格、所有冠詞、形容詞
第10回	Lektion 5: 時間の表現; 一日の予定、時刻
第11回	Lektion 5: 時間の表現; 分離動詞、habenの過去形
第12回	Lektion 6: 場所の表現: 道案内、3格
第13回	Lektion 6: 場所の表現: 建物の中の案内、序数
第14回	学期末試験
第15回	到達度確認と一学期の振り返り
第16回	一学期の復習
第17回	Lektion 7: 職業と活動: 職業の言い方、話法の助動詞(können, müssen)
第18回	Lektion 7: 職業と活動: 活動の言い方、所有冠詞の4格
第19回	Lektion 8: ベルリン: 道案内、3・4格支配の前置詞
第20回	Lektion 8: ベルリン: 遠足のプラン、話法の助動詞(wollen)
第21回	Lektion 9: 休暇: 休暇について話す、現在完了形(haben支配)
第22回	Lektion 9: 休暇: 事故の描写、現在完了形(sein支配)
第23回	Lektion 10: 飲食: 食料品の買い物、定冠詞類(welch-)
第24回	Lektion 10: 飲食: 食事の好み、比較級・最上級
第25回	Lektion 11: 衣服と天気: 衣服と色、形容詞の4格
第26回	Lektion 11: 衣服と天気: 天気予報、非人称表現(es)、話法の助動詞(mögen)
第27回	Lektion 12: 身体と健康: 症状を言う、命令形、話法の助動詞(dürfen)
第28回	Lektion 12: 身体と健康: スポーツについて話す、感情を表現する、人称代名詞の4格
第29回	学年末試験
第30回	到達度確認と一年間の振り返り

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2と同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法(対面授業の場合)

パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染状況により、遠隔授業にせざるを得ない場合は、同時配信型(Zoom使用)で、主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMSを使用して、フィードバックします。

教科書

- Studio 21 (A1.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Glossar, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350101101	科目ナンバリング	035A102
講義名	コミュニケーション演習(初級)2A		
副題	Studio 21 (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、都市の紹介、アポをとる、道案内など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気、健康)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, wohin)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 1: カフェでの会話;平叙文と疑問文
第4回	Lektion 2: 教室での会話;単数形と複数形
第5回	Lektion 2: 教室での会話;定冠詞と不定冠詞、haben
第6回	Lektion 3: 国と都市;方角の表現
第7回	Lektion 3: 国と都市;seinの過去形、言語の名前
第8回	Lektion 4:人と住居;住居の描写
第9回	Lektion 4:人と住居;4格、所有冠詞、形容詞
第10回	Lektion 5: 時間の表現; 一日の予定、時刻
第11回	Lektion 5: 時間の表現; 分離動詞、habenの過去形
第12回	Lektion 6: 場所の表現: 道案内、3格
第13回	Lektion 6: 場所の表現: 建物の中の案内、序数
第14回	学期末試験
第15回	到達度確認と一学期の振り返り
第16回	一学期の復習
第17回	Lektion 7: 職業と活動: 職業の言い方、話法の助動詞(können, müssen)
第18回	Lektion 7: 職業と活動: 活動の言い方、所有冠詞の4格
第19回	Lektion 8: ベルリン: 道案内、3・4格支配の前置詞
第20回	Lektion 8: ベルリン: 遠足のプラン、話法の助動詞(wollen)
第21回	Lektion 9: 休暇: 休暇について話す、現在完了形(haben支配)
第22回	Lektion 9: 休暇: 事故の描写、現在完了形(sein支配)
第23回	Lektion 10: 飲食: 食料品の買い物、定冠詞類(welch-)
第24回	Lektion 10: 飲食: 食事の好み、比較級・最上級
第25回	Lektion 11: 衣服と天気: 衣服と色、形容詞の4格
第26回	Lektion 11: 衣服と天気: 天気予報、非人称表現(es)、話法の助動詞(mögen)
第27回	Lektion 12: 身体と健康: 症状を言う、命令形、話法の助動詞(dürfen)
第28回	Lektion 12: 身体と健康: スポーツについて話す、感情を表現する、人称代名詞の4格
第29回	学年末試験
第30回	到達度確認と一年間の振り返り

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2と同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法(対面授業の場合)

パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染状況により、遠隔授業にせざるを得ない場合は、同時配信型(Zoom使用)で、主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMSを使用して、フィードバックします。

教科書

- Studio 21 (A1.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Glossar, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350101102	科目ナンバリング	035A102
講義名	コミュニケーション演習(初級)2B		
副題	Studio 21 (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 対面授業		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、都市の紹介、アポをとる、道案内など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気、健康)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, wohin)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 1: カフェでの会話;平叙文と疑問文
第4回	Lektion 2: 教室での会話;単数形と複数形
第5回	Lektion 2: 教室での会話;定冠詞と不定冠詞、haben
第6回	Lektion 3: 国と都市;方角の表現
第7回	Lektion 3: 国と都市;seinの過去形、言語の名前
第8回	Lektion 4:人と住居;住居の描写
第9回	Lektion 4:人と住居;4格、所有冠詞、形容詞
第10回	Lektion 5: 時間の表現; 一日の予定、時刻
第11回	Lektion 5: 時間の表現; 分離動詞、habenの過去形
第12回	Lektion 6: 場所の表現: 道案内、3格
第13回	Lektion 6: 場所の表現: 建物の中の案内、序数
第14回	学期末試験
第15回	到達度確認と一学期の振り返り
第16回	一学期の復習
第17回	Lektion 7: 職業と活動: 職業の言い方、話法の助動詞(können, müssen)
第18回	Lektion 7: 職業と活動: 活動の言い方、所有冠詞の4格
第19回	Lektion 8: ベルリン: 道案内、3・4格支配の前置詞
第20回	Lektion 8: ベルリン: 遠足のプラン、話法の助動詞(wollen)
第21回	Lektion 9: 休暇: 休暇について話す、現在完了形(haben支配)
第22回	Lektion 9: 休暇: 事故の描写、現在完了形(sein支配)
第23回	Lektion 10: 飲食: 食料品の買い物、定冠詞類(welch-)
第24回	Lektion 10: 飲食: 食事の好み、比較級・最上級
第25回	Lektion 11: 衣服と天気: 衣服と色、形容詞の4格
第26回	Lektion 11: 衣服と天気: 天気予報、非人称表現(es)、話法の助動詞(mögen)
第27回	Lektion 12: 身体と健康: 症状を言う、命令形、話法の助動詞(dürfen)
第28回	Lektion 12: 身体と健康: スポーツについて話す、感情を表現する、人称代名詞の4格
第29回	学年末試験
第30回	到達度確認と一年間の振り返り

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2と同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法(対面授業の場合)

パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染状況により、遠隔授業にせざるを得ない場合は、同時配信型(Zoom使用)で、主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMSを使用して、フィードバックします。

教科書

- Studio 21 (A1.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Glossar, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350102101	科目ナンバリング	035A201
講義名	コミュニケーション演習(中級)1A		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 - 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom利用の予定)。全面的に対面式授業になるまでは原則としてオンライン授業を行います。ただし、筆記試験だけは対面式で行う予定です。詳しくは授業開始後連絡します。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350102102	科目ナンバリング	035A201
講義名	コミュニケーション演習(中級)1B		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 - 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom利用の予定)。全面的に対面式授業になるまでは原則としてオンライン授業を行います。ただし、筆記試験だけは対面式で行う予定です。詳しくは授業開始後連絡します。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350103101	科目ナンバリング	035A202
講義名	コミュニケーション演習(中級)2A		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 対面授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 - 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で行います。授業中の練習を多くします。

授業方法(遠隔授業の場合)

コロナ感染状況により、同時配信型(Zoom利用の予定)のオンライン授業にする場合もあります。ただし、その場合でも、筆記試験だけは対面式で行う予定です。詳しくは授業開始後連絡します。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350103102	科目ナンバリング	035A202
講義名	コミュニケーション演習(中級)2B		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 対面授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 - 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で行います。授業中の練習を多くします。

授業方法(遠隔授業の場合)

コロナ感染状況により、同時配信型(Zoom利用の予定)のオンライン授業にする場合もあります。ただし、その場合でも、筆記試験だけは対面式で行う予定です。詳しくは授業開始後連絡します。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350104101	科目ナンバリング	035A203
講義名	コミュニケーション演習(中級)3A		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3		
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 - 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom利用の予定)。全面的に対面式授業になるまでは原則としてオンライン授業を行います。ただし、筆記試験だけは対面式で行う予定です。詳しくは授業開始後連絡します。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350104102	科目ナンバリング	035A203
講義名	コミュニケーション演習(中級)3B		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3		
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Willkommen in A2
第2回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第3回	Lektion 1 Leben und lernen in Europa
第4回	Lektion 2 Familiengeschichten
第5回	Lektion 2 Familiengeschichten
第6回	Lektion 3 Unterwegs
第7回	Lektion 3 Unterwegs
第8回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第9回	Lektion 4 Freizeit und Hobby
第10回	Lektion 5 Medien im Alltag
第11回	Lektion 5 Medien im Alltag
第12回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第13回	Lektion 6 Ausgehen, Leute treffen
第14回	Abschlussprüfung im Sommersemester
第15回	Evaluation
第16回	Wiederholungen der Lektionen 1 - 6
第17回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第18回	Lektion 7 Vom Land in die Stadt
第19回	Lektion 8 Kulter erleben
第20回	Lektion 8 Kulter erleben
第21回	Lektion 9 Arbeitswelten
第22回	Lektion 9 Arbeitswelten
第23回	Lektion 10 Feste und Feiern
第24回	Lektion 10 Feste und Feiern
第25回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第26回	Lektion 11 Mit allen Sinnen
第27回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第28回	Lektion 12 Ideen und Erfindungen
第29回	Abschlussprüfung im Wintersemester
第30回	Evaluation

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom利用の予定)。全面的に対面式授業になるまでは原則としてオンライン授業を行います。ただし、筆記試験だけは対面式で行う予定です。詳しくは授業開始後連絡します。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通してくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350105201	科目ナンバリング	035A133
講義名	アカデミック・スキルズ入門		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

アカデミック・スキルズ (academic skills) とは、学ぶためのさまざまな技法のことです。典型的には、情報を整理して取り込んだり、保持したり、評価する技法を指し、ほとんどすべての学問分野に応用がきき、比較的短時間に習得できるものとされています。本授業では、大学で学ぶための基礎となるアカデミック・スキルズを身につけることをめざします。具体的には、自分で疑問に思ったことを問題として取りあげ、関連した過去の研究を探して読み、自らの視点から新たな資料を見つけて分析するという一連の標準的な研究スタイルを理解し、実践できるようになることです。現代の大学生に求められるのは、コンピュータを使った情報収集と情報整理を効率的に行うことです。それに基づいて、プレゼンテーションを行い、レポートを書くことを学びます。

到達目標

- ・問題提起・過去の関連研究の検索と読解・新たな資料の発見と分析という標準的研究スタイルを理解し実践できるようになる。
- ・コンピュータを利用して情報収集・情報整理・情報評価ができるようになる。
- ・コンピュータを利用して、レポートを書いたり、プレゼンテーションを効果的にできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(本授業のやり方、オンライン授業の注意点、授業で使うツールの説明など)
第2回	標準的な研究スタイルの理解、発言の仕方、PCでドイツ語を使う方法
第3回	大学図書館ガイダンス(図書検索と情報入手のためのテクニック)
第4回	引用と参照、研究倫理
第5回	文献資料の検索と入手(1) 新聞記事データベース
第6回	文献資料の検索と入手(2) 論文検索データベース
第7回	クリティカルリーディング(健全な疑いを持つこと)
第8回	ディスカッション(1)(自分の意見をまとめる、反対意見を述べる)
第9回	ディスカッション(2)(他人の意見に同意する、議論を発展させる)
第10回	Excelの使い方:基本操作とグラフの作成
第11回	資料の入手と利用(テキストデータ、統計資料、音声資料、動画資料)
第12回	プレゼンテーションの仕方(PowerPoint の利用、ハンドアウトの作成)
第13回	レポートの作成(目標設定、構成作成、パラグラフ・ライティング、参考文献リスト作成)
第14回	1学期の復習
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

基本的には遠隔授業で行う予定ですが、対面式授業が許可された場合は、演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomによる同時配信型で行います。オンデマンド型の教材をLMS(manaba)で提供します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、必ず課題を出します。次の授業はその課題を基に進めていきます。
- ・復習は、各自自分のペースで集中して行ってください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	学期末レポート
小テスト	30 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。
- ・研究倫理の遵守は、成績評価の際の規準として前提としています。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は主にmanabaによって回収し、コメントを付けて返却します。

教科書

知って欲しい国ドイツ,新野守弘、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,978-4-87498-633-2

教科書コメント

教科書は、第2学期の『現代地域事情入門ゼミナール A/B』と共通で、一年間を通じて使用します。必ず購入し、第一回目の授業に持参してください。この授業では、前半のⅠ章とⅡ章を主に使用します。

参考文献コメント

必要に応じて、授業中にその都度指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の1年生の必修科目で、当学科の1年生は必ず履修しなければなりません。他学部・他学科の学生は履修できません。

その他

- ・積極的に発言する人を歓迎します。
- ・授業に関する連絡は、G-Portおよびmanabaを通じて行います。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350106201	科目ナンバリング	035A134
講義名	現代地域事情 入門ゼミナールA		
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

ドイツ語圏文化学科1年生の必修科目です。1学期のアカデミックスキルズ入門で学んだ調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等についての基礎的な理解を前提に、主にグループワークで戦後～現代ドイツの重要テーマを学びます。授業の最後には、それらのテーマをさらに深めて発表を行います。またその内容をまとめてレポートとして提出します。

到達目標

現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。
自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、表現する能力を身に着けること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション / ナチスの概要
第2回	ナチス / ナチスの概要(続き)・内容説明と意見形成
第3回	ナチス / 戦争責任と「謝罪」
第4回	東ドイツ / 東ドイツの概要
第5回	東ドイツ / 東ドイツの概要(続き)
第6回	移民・難民 / ドイツの移民・難民受け入れの歴史
第7回	移民・難民 / 日独比較・論点
第8回	環境・エネルギー / 歴史
第9回	環境・エネルギー / 論点
第10回	発表準備(グループ内調整、グループ内発表練習)
第11回	グループ発表①
第12回	グループ発表②
第13回	グループ発表③
第14回	復習・レポート課題について
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で、グループワークを重視します。授業は基本的に対面で行いますが、回によっては同時配信型のオンライン方式(Zoomを使用)にする場合があります。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

成績評価コメント

・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールへの順守、5. 形式を採点基準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題はmanabaによって回収し、コメントを付けます。

教科書

知ってほしい国ドイツ,新野守広、飯田道子、梅田紅子,高文研,2019,9784874986332

教科書コメント

1学期のアカデミックスキルズ入門で使用した教科書をこの授業でも使用します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

G-PortおよびLMS (manaba等)を通じて連絡します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350106202	科目ナンバリング	035A134
講義名	現代地域事情 入門ゼミナールB		
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

ドイツ語圏文化学科1年生の必修科目です。1学期のアカデミックスキルズ入門で学んだ調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等についての基礎的な理解を前提に、主にグループワークで戦後～現代ドイツの重要テーマを学びます。授業の最後には、それらのテーマをさらに深めて発表を行います。またその内容をまとめてレポートとして提出します。

到達目標

現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。
自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、表現する能力を身に着けること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション / ナチスの概要
第2回	ナチス / ナチスの概要(続き)・内容説明と意見形成
第3回	ナチス / 戦争責任と「謝罪」
第4回	東ドイツ / 東ドイツの概要
第5回	東ドイツ / 東ドイツの概要(続き)
第6回	移民・難民 / ドイツの移民・難民受け入れの歴史
第7回	移民・難民 / 日独比較・論点
第8回	環境・エネルギー / 歴史
第9回	環境・エネルギー / 論点
第10回	発表準備(グループ内調整、グループ内発表練習)
第11回	グループ発表①
第12回	グループ発表②
第13回	グループ発表③
第14回	復習・レポート課題について
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で、グループワークを重視します。授業は基本的に対面で行いますが、回によっては同時配信型のオンライン方式(Zoomを使用)にする場合があります。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
レポートは、①テーマへの理解度、②論理性・独自性、③日本語力、④引用・参照ルールの順守、⑤形式を採点基準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題はmanabaによって回収し、コメントを付けます。

教科書

知ってほしい国ドイツ,新野守広、飯田道子、梅田紅子,高文研,2019,9784874986332

教科書コメント

1学期のアカデミックスキルズ入門で使用した教科書をこの授業でも使用します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

G-PortおよびLMS (manaba等)を通じて連絡します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350107101	科目ナンバリング	035A211
講義名	言語・情報 入門ゼミナールA		
副題	ドイツ語学概論		
英文科目名	Introduction: to Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

ドイツ語学の概論として、ドイツ語の通時的変化、共時的特徴を理解する。現代ドイツ語の音声、文法(形態論・統語論)、語彙、意味、用法などの基礎的な概念を論じるとともに、中期高地ドイツ語・初期新高ドイツ語のテキストを読む基礎を習得する。

到達目標

- 以下の点について理解し、実践または説明できることを目標とする。
- ・ドイツ語の音声について、日本語との違いを意識して、発音したり、説明したりすること。
 - ・ドイツ語の文法現象について、初級文法の範囲を超えた「しくみ」を説明できること。
 - ・ドイツ語の語彙についての特徴を説明できること。
 - ・ドイツ語の意味や用法面について、特に日本語との捉え方、表現の仕方が異なる点を説明できること。
 - ・ドイツ語の歴史について、印欧祖語から現代ドイツ語までの変遷を大まかに説明できること。
 - ・中高ドイツ語のテキストを辞書や語注を頼りに読めるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、一般的注意):ドイツ語学入門 ドイツ語とはどんな言語か?
第2回	ドイツ語の音声(1) 母音と子音
第3回	ドイツ語の音声(2) リズムとアクセント、日本語との対照
第4回	ドイツ語の歴史(1) ドイツ語の通時的変化(印欧語から現代ドイツ語までの変遷)
第5回	ドイツ語の歴史(2) 中高ドイツ語の特徴とテキスト読解
第6回	ドイツ語の歴史(3) 初期新高ドイツ語の特徴とテキスト読解
第7回	ドイツ語の形態・統語論(1) 語の特徴
第8回	ドイツ語の形態・統語論(2) 文の特徴
第9回	ドイツ語と言語類型論 ドイツ語の類型論的特徴
第10回	ドイツ語の意味論と語用論
第11回	参加者発表(1)とディスカッション
第12回	参加者発表(2)とディスカッション
第13回	参加者発表(3)とディスカッション
第14回	参加者発表(4)とディスカッション、全体のまとめ
第15回	振り返り

授業方法(対面授業の場合)

演習形式。授業はそのトピックに関する解説を行い、それをもとにグループワークを通して知識を定着させていく形式を取る。なお、トピック部分はLMS(manaba)により配信することもある。最終的に参加者が発表する。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)。授業はそのトピックに関する解説を行い、それをもとにグループワークを通して知識を定着させていく形式を取る。なお、トピック部分はLMS(manaba)により配信することもある。最終的に参加者が発表する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回のトピックに関して事前に配信されたオンデマンド型の教材があればそれを学習する。また、毎回、復習をして内容の理解、定着に努める。毎回の予習復習は90分程度必要。最終発表の準備に6時間程度必要

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)

30 %

口頭発表

成績評価コメント

毎回の授業で積極的に発言をし、自分が選んだトピックに関して、独自の調査、研究ができることを評価の基準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS (manaba)を通じてフィードバックする。

教科書コメント

特定の教科書は使用しない。

参考文献コメント

参考文献はその授業中にその都度指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず参加すること。

その他

レポートに関してはmanaba上で集めフィードバックします。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350107102	科目ナンバリング	035A211
講義名	言語・情報 入門ゼミナールB		
副題	ドイツ語学概論		
英文科目名	Introduction: to Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

ドイツ語学の概論として、ドイツ語の通時的変化、共時的特徴を理解する。現代ドイツ語の音声、文法(形態論・統語論)、語彙、意味、用法などの基礎的な概念を論じるとともに、中期高地ドイツ語・初期新高ドイツ語のテキストを読む基礎を習得する。

到達目標

- 以下の点について理解し、実践または説明できることを目標とする。
- ・ドイツ語の音声について、日本語との違いを意識して、発音したり、説明したりすること。
 - ・ドイツ語の文法現象について、初級文法の範囲を超えた「しくみ」を説明できること。
 - ・ドイツ語の語彙についての特徴を説明できること。
 - ・ドイツ語の意味や用法面について、特に日本語との捉え方、表現の仕方が異なる点を説明できること。
 - ・ドイツ語の歴史について、印欧祖語から現代ドイツ語までの変遷を大まかに説明できること。
 - ・中高ドイツ語のテキストを辞書や語注を頼りに読めるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、一般的注意):ドイツ語学入門 ドイツ語とはどんな言語か?
第2回	ドイツ語の音声(1) 母音と子音
第3回	ドイツ語の音声(2) リズムとアクセント、日本語との対照
第4回	ドイツ語の歴史(1) ドイツ語の通時的変化(印欧語から現代ドイツ語までの変遷)
第5回	ドイツ語の歴史(2) 中高ドイツ語の特徴とテキスト読解
第6回	ドイツ語の歴史(3) 初期新高ドイツ語の特徴とテキスト読解
第7回	ドイツ語の形態・統語論(1) 語の特徴
第8回	ドイツ語の形態・統語論(2) 文の特徴
第9回	ドイツ語と言語類型論 ドイツ語の類型論的特徴
第10回	ドイツ語の意味論と語用論
第11回	参加者発表(1)とディスカッション
第12回	参加者発表(2)とディスカッション
第13回	参加者発表(3)とディスカッション
第14回	参加者発表(4)とディスカッション、全体のまとめ
第15回	振り返り

授業方法(対面授業の場合)

演習形式。授業はそのトピックに関する解説を行い、それをもとにグループワークを通して知識を定着させていく形式を取る。なお、トピック部分はLMS(manaba)により配信することもある。最終的に参加者が発表する。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)。授業はそのトピックに関する解説を行い、それをもとにグループワークを通して知識を定着させていく形式を取る。なお、トピック部分はLMS(manaba)により配信することもある。最終的に参加者が発表する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回のトピックに関して事前に配信されたオンデマンド型の教材があればそれを学習する。また、毎回、復習をして内容の理解、定着に努める。毎回の予習復習は90分程度必要。最終発表の準備に6時間程度必要

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)

30 %

口頭発表

成績評価コメント

毎回の授業で積極的に発言をし、自分が選んだトピックに関して、独自の調査、研究ができることを評価の基準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS (manaba)を通じてフィードバックする。

教科書コメント

特定の教科書は使用しない。

参考文献コメント

参考文献はその授業中にその都度指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず参加すること。

その他

レポートに関してはmanaba上で集めフィードバックします。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350108101	科目ナンバリング	035A221
講義名	文学・文化 入門ゼミナールA		
副題	ドイツ文化史入門		
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

この授業では、まずドイツ語圏の地域の歴史的背景を学びます。そのうえで、それぞれの時代に特徴的な芸術作品(文学、絵画、音楽等)に触れ、ドイツ語圏の文化史の全体像をつかむことを目標とします。学生発表を中心に授業を進めますので、その過程で、文献検索の仕方や発表の仕方、レポート作成の基礎等、アカデミック・スキルの基本も学びます。

到達目標

- ・ドイツ語圏の(特に近代以降の)歴史の大きな流れをつかむ。
- ・問題を発見するための考え方を身につける。
- ・資料検索、資料作成、レポート作成等の、学習技術も身につける。
- ・他の人の発表にコメントできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、発表テーマ希望調査
第2回	教科書「中世から初期近代へ」、テーマ決定
第3回	教科書「ナポレオンの衝撃」
第4回	教科書「自由と統一をめざして」、文献リストの提出
第5回	教科書「ドイツ帝国」
第6回	教科書「第一次世界大戦」、発表資料(ハンドアウト)の作成
第7回	教科書「ヴァイマル共和国」
第8回	教科書「ナチ・ドイツ」
第9回	教科書「ホロコースト」、学生発表①
第10回	教科書「冷戦と分断」、学生発表②
第11回	教科書「二つのドイツ」、学生発表③
第12回	教科書「東西ドイツの統一」、学生発表④
第13回	教科書「過去の克服」、学生発表⑤
第14回	教科書「統一ドイツとEU」
第15回	到達度確認

授業計画コメント

一人1回、10分程度の口頭発表をしてもらいます。

授業方法(対面授業の場合)

感染対策を行いつつ、対面授業を行う予定です。グループワークを中心に授業を進めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔に切り替える必要性が出てきた場合は、Zoomを使った同時配信型で授業をします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、教科書の指定箇所を事前に読んで、それについてまとめてください(1～2時間程度)。
- ・適宜、発表のための準備を進めてください(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

成績には授業への参加態度(出席、積極的発言、課題提出等)も含まれます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・発表は皆でコメントしあいます。
- ・レポートはコメントをつけて返却します。

教科書

図説 ドイツの歴史,石田勇治,河出書房新社,2007,9784309761053

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350108102	科目ナンバリング	035A221
講義名	文学・文化 入門ゼミナールB		
副題	ドイツ文化史入門		
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

この授業では、まずドイツ語圏の地域の歴史的背景を学びます。そのうえで、それぞれの時代に特徴的な芸術作品(文学、絵画、音楽等)に触れ、ドイツ語圏の文化史の全体像をつかむことを目標とします。学生発表を中心に授業を進めますので、その過程で、文献検索の仕方や発表の仕方、レポート作成の基礎等、アカデミック・スキルの基本も学びます。

到達目標

- ・ドイツ語圏の(特に近代以降の)歴史の大きな流れをつかむ。
- ・問題を発見するための考え方を身につける。
- ・資料検索、資料作成、レポート作成等の、学習技術も身につける。
- ・他の人の発表にコメントできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、発表テーマ希望調査
第2回	教科書「中世から初期近代へ」、テーマ決定
第3回	教科書「ナポレオンの衝撃」
第4回	教科書「自由と統一をめざして」、文献リストの提出
第5回	教科書「ドイツ帝国」
第6回	教科書「第一次世界大戦」、発表資料(ハンドアウト)の作成
第7回	教科書「ヴァイマル共和国」
第8回	教科書「ナチ・ドイツ」
第9回	教科書「ホロコースト」、学生発表①
第10回	教科書「冷戦と分断」、学生発表②
第11回	教科書「二つのドイツ」、学生発表③
第12回	教科書「東西ドイツの統一」、学生発表④
第13回	教科書「過去の克服」、学生発表⑤
第14回	教科書「統一ドイツとEU」
第15回	到達度確認

授業計画コメント

一人1回、10分程度の口頭発表をしてもらいます。

授業方法(対面授業の場合)

感染対策を行いつつ、対面授業を行う予定です。グループワークを中心に授業を進めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔に切り替える必要性が出てきた場合は、Zoomを使った同時配信型で授業をします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、教科書の指定箇所を事前に読んで、それについてまとめてください(1～2時間程度)。
- ・適宜、発表のための準備を進めてください(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

成績には授業への参加態度(出席、積極的発言、課題提出等)も含まれます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・発表は皆でコメントしあいます。
- ・レポートはコメントをつけて返却します。

教科書

図説 ドイツの歴史,石田勇治,河出書房新社,2007,9784309761053

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350109101	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(1)		
副題	会話文における論理的展開		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

話をする時、それぞれ話の筋を明確に表現しないと情報はうまく伝わりません。その際に求められるのは「文の論理的展開」です。話の前提があり、論理的に複数の文が関係して、結論にいたるのは文章を書く時とも共通しています。

以下の会話は、Nele Neuhaus (2019) <i>Muttertag.</i> の307ページからの引用です(ここでは話し手をAとBのようにして区別して、引用符を外しています)。

A: Jemand hat uns erzählt, dass Theo einen VW-Bulli umgebaut hatte, um mit seinen Tieren auf Ausstellungen zu fahren.

B: Ja. Und?

A: Sie haben das Auto wieder instand gesetzt.

B: Stimmt. Ein T2 von 1970, original bis zur letzten Muffe.

AさんはBさんに里親のテオ(Theo)がVW-Bus(俗称VW-Bulli、フォルクスワーゲン社の小型バス)を改造したという噂を語ります。Bさんは、「ああそうだ。それで?」と同意し、話を続けるように促します。そこで、Aさんは「あなたは、その車をまた修理しました。」と平叙文で述べますが、これはBさんに対する確認の意図が込められています。Bさんは、「その通り。1970年のT2、最後のスリーブまでオリジナルだ。」と答えていますので、その確認の意図は伝わっています。

ここでの論理展開は、<Aさんが噂話を切り出し>たのに対して、<Bさんが、その話は本当だと認め>、<Bさんがその車を修理したかどうかをAさんが>確認したのに対して<Bさんはそれを認める>という流れです。

Aさんの文は、どちらも平叙文です。それにも関わらず、疑問文と解釈されています。それはなぜなのでしょう? また、Bさんの答えJa(はい)と、Stimmt(その通り)は同じ意味なのでしょう? 会話文における文の論理展開の背後には、どのような話の流れがあるのかを考えてみるのが、1学期のこのゼミでの課題です。同じような会話の論理が、日本語でも可能なかどうかを考えることも課題です。

到達目標

- ・ドイツ語における会話文の背後にある話の流れ(論理的展開)を理解できるようになる。
- ・日本語とドイツ語における会話文の背後にある論理的展開の違いを意識できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	会話文の論理(概論)
第3回	発表の仕方と担当箇所の割り振り
第4回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第5回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第6回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第7回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第8回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第9回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第10回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第11回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第12回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第13回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第14回	授業の総括
第15回	到達度確認

授業計画コメント

ゼミ発表の原稿は、発表の2、3日前までに、メールで私のところへ送付すること。

授業方法(対面授業の場合)

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料はLMS(WebClass)を用いてあらかじめ配布します。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の急拡大が明らかになった場合は、オンラインで授業を行う可能性もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ゼミで用いる資料は、LMSであらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約1時)

間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	ゼミでの口頭発表、ディスカッションへの積極的関与、出席
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、WebClass を使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。資料は、LMSで配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示する。

履修上の注意

- ・第1回目の授業には必ず参加してください。
- ・言語・情報コースゼミナール(2)をあわせて履修すること。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が好きな人を歓迎します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350109102	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(2)		
副題	話し手の心的態度		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

話をする時、話の筋を明確にするだけでは情報がうまく伝わらないことがあります。その際に求められるのは「話し手の心的態度」を表明することです。話し手の心的態度にはいろいろなものがありますが、大まかに言ってしまうと、<なぜ私がこんなことを話しているのか>という話し手の意図を明確にする役割があります。

以下の会話は、Nele Neuhaus (2019) <i>Muttertag.</i> の307ページからの引用です(ここでは話し手をA と B のようにして区別して、引用符を外しています)。

A: Ach, Sie haben den Bulli verkauft?

B: Ja, letztes Jahr. Ging an einen Sammler nach Japan.

A: Sie haben die Instandsetzung doch sicherlich mit Fotos dokumentiert, oder?

AさんはBさんと特定のVW-Bus(俗称 Bulli、フォルクスワーゲン社の小型バス)の話をしていて、直前にBさんが「古い車を見つけて修理して、利益がでるようにしてさらに売る」のが自分の商売だと言っていたのをうけ、「ああ、あなたがあのバスを売ったんですね?」と平叙文で尋ねています。推測に基づいた疑問ですが、Achのように「ちょっとした驚き」の感嘆詞を入れることで、平叙文で語尾を上げて疑問を表現しています。Bさんは、「ええ、昨年ね。日本のコレクターのところに行きましたよ。」と同意して、情報を付け加えています。Bさんが車を売ったことを認めたのを受け、Aさんは、「あなたは、その車の修復をきつと写真を撮って記録していますよね?」と確認しています。平叙文の中に dochを入れて、<(記憶をたどって)確認することを迫って>いますし、駄目押しのように文末には oder? と明示的に確認を表現しています。

ある時は感嘆詞、ある時は、心象詞 doch、ある時は、疑問文のイントネーションを伴った付加疑問で、話し手の心的態度が表現されています。2学期のこのゼミでの課題は、会話文の中に潜む話し手の心的態度を表す表現を適切に解釈することです。そして、そのような表現が、日本語ではどのように表現されるかを考えることももう1つの課題です。

到達目標

- ・ドイツ語の会話文の中に潜む話し手の心的態度を表す表現を適切に解釈できるようになる。
- ・ドイツ語の心的態度が、日本語ではどのように表現されるが理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	話し手の心的態度とは何か?(概論)
第3回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第4回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第5回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第6回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第7回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第8回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第9回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第10回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第11回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第12回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第13回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第14回	授業の総括
第15回	到達度確認

授業計画コメント

ゼミ発表の原稿は、発表の2、3日前までに、メールで私のところへ送付すること。

授業方法(対面授業の場合)

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料はLMS(WebClass)を用いてあらかじめ配布します。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の急拡大が明らかになった場合は、オンラインで授業を行う可能性もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ゼミで用いる資料は、LMSであらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	ゼミでの口頭発表、ディスカッションへの積極的関与、出席
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、WebClass を使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。資料は、LMSで配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示する。

履修上の注意

- ・第1回目の授業には必ず参加してください。
- ・言語・情報コースゼミナール(1)をあわせて履修すること。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が好きな人を歓迎します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350109103	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(3)		
副題	言語と政治—基本概念と方法論		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 対面授業		

授業概要

政治における言語は、聴き手(有権者)の心を動かす目的で使用されていると言えます。歴史上の感動的なスピーチは、語られる内容(what?)そのものに心を動かす力があるわけですが、どのように語られるか(how?)も劣らず重要であることが知られています。語られ方に注目すると、戦争へ向かう道が為政者の巧みな言語表現によって敷かれてきた面があることに気づきます。「平和」「理念」「自由」「名誉」等々の耳あたりのよい抽象名詞が多用されると、警戒が必要です。これらの語のもとに何を理解するかがひとによって異なり意味が曖昧であるからこそ、これらは国民のさまざまな願望を叶える(ところを操る)マジックワードとなりうるのです。この授業では、いま述べたような政治における巧みな言語使用を批判的に分析し、政治における言語の役割をめぐって洞察を深めていきます。

到達目標

言語と政治に関する基本的な概念を学習したあと、政治的言語を分析するための方法論を学び、実際にその方法論でいくつかのテキストを分析する練習をすることで、政治における巧みな言語使用を批判的に分析する力をつけていきます。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	基本概念の学習(1):言語による命名と論争
第3回	基本概念の学習(2):言語の両義性(曖昧さ)の利用
第4回	基本概念の学習(3):言語の情動的影響力
第5回	修辞学的分析の学習
第6回	批判的談話分析の学習(分析のための着眼点と枠組み)
第7回	批判的談話分析の練習:★ビスマルクの「鉄血演説」(1862年)★
第8回	キャプション分析の学習(言語の「投錨」機能と「中継」機能)
第9回	キャプション分析の練習:★1936年の週刊新聞《Illustrierter Beobachter》の写真キャプション★
第10回	計量的分析の学習(特徴語の検出、語と語の共起関係)
第11回	計量的分析の練習:★緑の党とAfDの公式HPにおける語彙の比較★
第12回	マルチモード分析の学習(ビート、音調、視線、ジェスチャー、修辞構造)
第13回	マルチモード分析の練習:★ドイツ首相候補TV討論(2005年、Schröder vs Merkel)★
第14回	授業の総括
第15回	到達度の確認

授業方法(対面授業の場合)

分析法の学習と分析の練習を実習するとともに、浮かび上がった問題点・疑問点に関して議論を行う形式で対面授業を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルスの感染状況等に応じて、ZOOMによる同時配信型の遠隔授業を行う可能性もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で扱う資料については事前にLMS(manaba)で配布しますので、各自資料をよく読んで理解を進めておいてください(60分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関しては、内容理解、論理構成、表現の正確さ、独自性、引用・出典明示を基準にして採点します。各受講生に文書または口頭(面談)で評価内容を伝えます。

参考文献コメント

授業中および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。

第2学期の言語・情報コース セミナール(4)と合わせて履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350109104	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(4)		
副題	言語と政治－事例研究		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 対面授業		

授業概要

第1学期に政治における言語の役割について学び会得した方法論を実際に適用して、各受講生が関心のある時代の政治状況・政治家を自主的に選び出し、その言語使用の様子を自力で分析してみます。研究書や論文に書かれている内容を紹介するのではなく、一次資料を実際に手にして自らが分析します。これができれば、言語と政治に関する研究者の仲間入りです。下の「授業内容」欄に、ありえるトピックを例示してあります。

到達目標

各受講生が方法論を意識しながら考察対象を自主的に選択し、自分自身の手と目で分析し、一定の結論を提示できるようになること。また、その研究成果を所定時間内にわかりやすくプレゼンテーションする能力を高めること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	教員によるレクチャー(1):ナチスドイツ宣伝省会議による言語統制方針の決定
第3回	教員によるレクチャー(2):現代ドイツの右翼ポピュリズム政党による言語使用の特徴
第4回	方法論の復習と再確認
第5回	学生発表(1):[例示]ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世の演説の修辞学的分析
第6回	学生発表(2):[例示]ナチ党選挙パンフレット(1932年)に関する批判的談話分析
第7回	学生発表(3):[例示]ドイツ少女同盟月刊誌 Das Deutsche Mädel における写真キャプションの分析
第8回	学生発表(4):[例示]ドイツ歴代首相の大晦日スピーチの経年変化
第9回	学生発表(5):[例示]東ドイツのポスターのキャプション分析
第10回	学生発表(6):[例示]政治家が発信するSNSの言語に関する計量的分析
第11回	学生発表(7):[例示](自宅待機を情動的に求めた)Merkel 前首相の連邦議会演説(2020年12月9日)に関するマルチモード分析
第12回	学生発表(8):[例示]コロナ規制反対デモの言語に関する批判的談話分析
第13回	学生発表(9):[例示]ドイツ新首相 Scholz の演説に関するマルチモード分析
第14回	授業の総括
第15回	到達度の確認

授業方法(対面授業の場合)

受講生が自らの分析について発表(プレゼンテーション)したあと、全員で議論する形式で、対面授業を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルスの感染状況等に応じて、ZOOMによる同時配信型の遠隔授業を行う可能性もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生は発表(プレゼンテーション)をするにあたって、担当教員と個別に面談を複数回行います。授業で扱う資料については事前にLMS(manaba)で配布しますので、各自資料をよく読んで理解を進めておいてください(60分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表(プレゼンテーション)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関しては、内容理解、論理構成、表現の正確さ、独自性、引用・出典明示を基準にして採点します。各受講生に文書または口頭(面談)で評価内容を伝えます。

参考文献コメント

授業中および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。

第1学期の言語・情報コース ゼミナール(3)と合わせて履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350109105	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(5)		
副題	言語習得研究		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 対面授業		

授業概要

我々はどうのように第一言語(母語)を獲得し、さらに第二言語(外国語など)を習得しようとしていくのでしょうか。このゼミナールでは、言語習得について現在判明していることを確認し、さらにドイツ語が母語として、また、第二言語としてどのように習得されるかを調べていきます。

到達目標

- ・母語の習得について現在判明している重要な点を述べるができる。
- ・第二言語の習得について現在判明している重要な点を述べるができる。
- ・ドイツ語の習得について、自ら調査し、知見を述べることができる。

授業内容

実施回 内容

- | 実施回 | 内容 |
|------|----------------------|
| 第1回 | 導入;授業の進め方、母語と第二言語の違い |
| 第2回 | 母語1) 母語の獲得とは |
| 第3回 | 母語2) 言語音の知覚と語の獲得 |
| 第4回 | 母語3) 文の獲得 |
| 第5回 | 母語4) インプットの役割 |
| 第6回 | 母語5) 言語獲得理論 |
| 第7回 | 参加者発表(1) |
| 第8回 | 第二言語1) 第二言語習得とは |
| 第9回 | 第二言語2) 中間言語 |
| 第10回 | 第二言語3) 第二言語習得のメカニズム |
| 第11回 | 第二言語4) 学習者要因 |
| 第12回 | 第二言語5) 教室における第二言語習得 |
| 第13回 | 参加者発表(2) |
| 第14回 | まとめ |
| 第15回 | ふりかえり |

授業方法(対面授業の場合)

対面式で、演習形式で行う。ただし、新型コロナウイルスの感染状況により、学期中に遠隔授業(Zoomによる同時配信型)に切り替える可能性もある。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業に切り替えた場合は、Zoomによる同時配信型にする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の読解に週に1時間程度。その他に口頭発表の準備のため、合計20時間ほどの学習や調査が必要。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	口頭発表
レポート	40 %	期末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学習項目をきちんと理解した上で、ドイツ語の資料を適切に分析できているかが評価のポイントになる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS(manaba)を使用してフィードバックする。

教科書

ことばの習得 母語獲得と第二言語習得,鈴木孝明・白畑知彦,くろしお出版,2012,978-4-87424-544-6

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350109106	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(6)		
副題	ジェンダー言語学		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 対面授業		

授業概要

<ジェンダー>の問題を考えるには、言語と<ジェンダー>の関係性を捉えておかなければなりません。なぜなら、言語は現実のありようを反映するとともに、現実を規定していく力も持っているからです。この授業では、言語学の中で、<ジェンダー>がどう考察されてきたかを扱うとともに、現在の言語(特に、日本語、英語、ドイツ語)の中で<ジェンダー>がどう表現されているかを見ていきます。

到達目標

- ・言語学の中で<ジェンダー>がどう扱われてきたかを理解し、説明できるようになること。
- ・現在の使用の中で<ジェンダー>がどう表現されているかを分析し、説明できる能力を身につけること。

授業内容

実施回 内容

第1回	導入：言語における<ジェンダー>の問題とは何か？
第2回	言語とジェンダー研究の幕開け(1)：レイコフの『言語と女の地位』
第3回	言語とジェンダー研究の幕開け(2)：スペンダーの「男が作った言語」
第4回	言語と性差(1)：社会学的考察：女性と標準形
第5回	言語と性差(2)：ディスコース分析：異性間の会話
第6回	言語と性差(3)：ディスコース分析：同性間の会話
第7回	日本語の「おんな言葉」(1)：歴史的考察
第8回	日本語の「おんな言葉」(2)：実証的考察
第9回	日本語の「おんな言葉」(3)：イデオロギー的考察
第10回	ドイツ語におけるジェンダー(1)：名詞に性がある言語の特徴
第11回	ドイツ語におけるジェンダー(2)：女性の可視化
第12回	ドイツ語におけるジェンダー(3)：メディアにおける女性像
第13回	まとめ：<ジェンダー>に「中立」な言語使用はどうあるべきか
第14回	到達度確認
第15回	総括と振り返り

授業方法(対面授業の場合)

基本的に対面授業で演習形式で行う。

授業方法(遠隔授業の場合)

コロナウイルス感染状況により、遠隔授業にする場合は、Zoom使用による同時配信型の演習にする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内容を理解するために、必要な資料を週に1時間程度読む必要があります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	20 %	口頭発表
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表と、授業の内容を基に自らの考察をまとめたレポートを評価の主として、授業中の積極的な参加を加味して総合的に評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題はmanabaを通じて回収し、コメントを返します。

教科書

Gender-Sprache-Stereotype: utb.-Nr. 5302, Hilke Elsen, Narr Franke Attempto Verlag, 2020, 978-3-8252-5302-8

ジェンダーで学ぶ言語学, 中村桃子, 世界思想社, 2010, 978-4790714705

ジェンダーの言語学, 永原浩行, れいのるず秋葉かつえ, 明石書店, 2004, 978-4750320069

教科書コメント

ここに教科書は講義の中で特に使用するものということで、購入する必要はありませんが、読んでおけば授業の内容がよりよく理解できます。

参考文献

ことばとジェンダー, 中村桃子, 勁草書房, 2001, 4-326-65247-0

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350110101	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(1)		
副題	ドイツ語圏の文学・文化とジェンダー(1)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

男女は平等であるという考えが広まり、女性の活躍推進が謳われる現代日本。けれどもその一方で、世界経済フォーラムのジェンダー・ギャップ指数は低迷し、大学生のうちには男女平等を信じていた学生も、就職活動を始めた途端に男女の格差を感じると言います。また、「LGBTQ+」等の言葉を耳にすることも増え、性の多様性への理解が広まる一方で、法的整備は進まず、自分とは異なる性を持つ人々への政治家等の差別発言は後を絶ちません。さらには、男性こそが今まさに生きづらさを感じているという指摘も。こうした問題の背景には、私たちが簡単には抜け出すことのできないジェンダー観がありそうです。このゼミナールでは、日本のこうしたジェンダー観に影響を与えた／与え続けている要素の一つとして、ドイツ語圏の文学作品を読みます。カントやゲーテは、男性や女性について何と言っているのでしょうか？『グリム童話』の女性観は日本にどんな影響を与えているでしょうか？ 授業では、グループワークを行いながらドイツの代表的な作品をジェンダーの観点から分析し、私たちの価値観を問い直します。

到達目標

- ・ドイツ語圏の文学・文化の諸作品に描かれた男性・女性を含む様々なジェンダーがいかにかに描かれてきたのかを知り、それを批判的に分析できるようになること。
- ・研究の方法および倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	男女のイメージ(聖書からテレビCMまで)
第3回	ジェンダーとは何か／ジェンダー論の現在
第4回	レッシング『エミーリア・ガロッティ』
第5回	ゲーテ『ファウスト』
第6回	グリム『白雪姫』『シンデレラ』とディズニー映画
第7回	グリム『赤ずきん』と現代日本
第8回	書く女性たち
第9回	性の解放とその反動:ヴェーデキント
第10回	同性愛とドイツ文学
第11回	ワイマール期のモダンガール
第12回	ナチス期の雑誌に見る男性／女性のイメージ
第13回	戦後:エンデを例に
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

全面的に対面授業にならない場合には、1学期はオンラインでの授業を想定しています。グループワークを中心とした演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

ズームを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出します(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにはコメントを付けて返却します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
文学・文化コース ゼミナール(2)と併せて履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350110102	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(2)		
副題	ドイツ語圏の文学・文化とジェンダー(2)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

1学期に得た「ドイツ語圏の文学・文化とジェンダー」に関する知識を前提に、学生に発表をしてもらい、ディスカッションを行います。

到達目標

- ・「ドイツ語圏の文学・文化とジェンダー」についての基礎的知識を前提に、自ら問いを立て、それに論理的に答えることができるようになること。
- ・このテーマについて自分の意見を適切に表現できるようになること。
- ・論文作成等を行う上で知っておくべき研究倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回 内容

第1回	イントロダクション
第2回	「ドイツ語圏の文学・文化とジェンダー」について復習
第3回	文学研究の基礎的方法
第4回	学生発表①芸蒙時代
第5回	学生発表②シュトゥルム・ウント・ドラング～古典主義
第6回	学生発表③ロマン派
第7回	学生発表④世紀転換期
第8回	学生発表⑤帝政ドイツ
第9回	学生発表⑥ワイマール期
第10回	学生発表⑦ナチス・ドイツ
第11回	学生発表⑧戦後～現代
第12回	学生発表⑨音楽・映画
第13回	学生発表⑩雑誌・絵画
第14回	総括・グループ発表
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

学生の関心により内容が変更になる可能性があります。

授業方法(対面授業の場合)

発表を中心とした演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業の場合にはズームを使用した同時配信型となります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者には、事前に発表テーマに関する資料を指定してもらいます。それを発表しない受講者に要約してきてもらいます。(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表の評価を返却します。それをベースに期末レポートを執筆してもらいます。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
文学・文化コース ゼミナール(1)と併せて履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350110103	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(3)		
副題	越境する芸術(1)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

芸術のさまざまな分野は、大抵は使用するメディアごとに、文学、音楽、絵画や彫刻などの造形芸術、ダンスや演劇などの身体芸術、そして建築などに分類されることが多いですが、この授業ではそうした境界づけを超える試みを取り上げてみたいと思います。第1学期の授業では、芸術ごとの境界を越えるだけでなく、社会との関わりを求めた斬新な試みを考察の対象としたいと思います。まずは個々の芸術分野を融合する「総合芸術」とそのための教育制度を生み出したバウハウス(Bauhaus)を取り上げます。次に独特の建築構想によって人間と自然との共生を実現し独自の芸術世界を作りあげたフンデルトヴァッサー(Hundertwasser)の作品を考察します。

到達目標

芸術の既成の枠付けを超えようとする試みが何を意味していたのか、そしてそれらは現代にどのような影響を与えてきたのかを個々の芸術家の事例について説明できるようになること、またそれらの事例の現代における意味について自分の考えを表現できるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	バウハウスとは
第3回	バウハウスとの芸術教育
第4回	バウハウスが目ざした総合芸術
第5回	バウハウスで活動した芸術家たち
第6回	パウル・クレーにおける絵画と音楽
第7回	カンディンスキーにおける抽象とは何か
第8回	カンディンスキーにおける色・音・形
第9回	フンデルトヴァッサーの芸術概観
第10回	直線と平面のない家
第11回	人間と自然を融合させる芸術
第12回	彫刻としての家屋建築
第13回	東西の融合(日本文化の取り入れ)
第14回	日本で見られるフンデルトヴァッサーの建築(大阪・舞洲清掃工場)
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

論文やレポート作成の際に知っておくべき研究倫理も学びます。

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は原則として行いません。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomをもちいた同時配信型のオンライン授業を行います。授業では共通のテキストについてのグループ討論にくわえて、各自担当テーマを決めて発表をしていただきます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)

30 %

各自選んだテーマについての発表

成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークで積極的に発言していること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析することができること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の課題については、授業中のグループワークで確認します。学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書コメント

テキストについては著作権に留意して配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

その他

授業内容などについての質問や欠席連絡などは、webclassのメールを使用してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350110104	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(4)		
副題	越境する芸術(2)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

第1学期に扱った「越境する芸術」の事例をさらに対象を広げて考えていきます。最初に扱うのはミハエル・エンデです。ミハエル・エンデの『鏡のなかの鏡—迷宮』には、シュルレアリスムの画家であった父エドガー・エンデの影響が強うかがえます。またこの作品は30の短編が連なって構成される連作短編であり、音楽との関連も指摘されています。授業ではまずエドガー・エンデの絵画作品を理解するためにシュルレアリスムの特徴を学びます。それにもとづいてミハエル・エンデの『鏡のなかの鏡—迷宮』を分析していきます。

次にミハエル・エンデとヨーゼフ・ボイスの関係を考察します。ヨーゼフ・ボイスは、これまでの芸術作品の常識をことごとく覆す作品およびパフォーマンスで知られています。さらに「人間はだれで芸術家である」というモットーに基づき、人間ならみな持っている創造的な能力を、社会を作り上げるために使おうとする「社会彫刻」という概念を提唱しました。ミハエル・エンデとヨーゼフ・ボイスの対話から、社会を変える芸術の可能性について考えてみたいと思います。

到達目標

シュルレアリスムの特徴を学び、エドガー・エンデの作品とミハエル・エンデの作品の共通点をシュルレアリスムの特徴から説明することができるようになること、ヨーゼフ・ボイスの独創的芸術観を知り、芸術と社会の関係について自分の意見を持つことができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	シュルレアリスムについて
第3回	エドガー・エンデの作品を読み解く
第4回	ミハエル・エンデ『鏡のなかの鏡—迷宮』(作品分析1)
第5回	ミハエル・エンデ『鏡のなかの鏡—迷宮』(作品分析2)
第6回	ミハエル・エンデ『鏡のなかの鏡—迷宮』(作品分析3)
第7回	ミハエル・エンデ『鏡のなかの鏡—迷宮』(作品分析4)
第8回	ミハエル・エンデの文学作品と絵画作品の関係
第9回	ヨーゼフ・ボイスの芸術観と作品(社会彫刻)
第10回	ヨーゼフ・ボイスの芸術観と作品(自然との共生)
第11回	ヨーゼフ・ボイスの芸術観と作品(既成の価値観を問いに付す)
第12回	芸術と社会「すべての人間が芸術家」という発言の考察
第13回	ミハエル・エンデとヨーゼフ・ボイス(対談1)人間と自然
第14回	ミハエル・エンデとヨーゼフ・ボイス(対談2)環境保護と芸術
第15回	理解度チェック

授業計画コメント

論文やレポートを作成の際に知っておくべき研究倫理を学ぶことも目標とします。

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は実施しません。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを用いた同時配信型のオンライン授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	各自選んだテーマについての発表

成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークで積極的に発言していること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析できること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の課題については、授業中のグループワークで確認します。学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書コメント

テキストは著作権に留意した上で配布します。

参考文献コメント

参考文献は、授業中に適宜指示します。

その他

授業に関する質問や欠席連絡などはwebclassのメールを使用してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350110105	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(5)		
副題	Goethe und seine Zeit		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Johann Wolfgang Goethe (1749-1832) prägte die deutschsprachige Literatur und Kultur in entscheidender Weise. Sein Leben, seine Werke und seine Zeitgenossen stehen im Mittelpunkt dieses Seminars. Ausgehend von einem leichtverständlichen Einführungstext über Goethe allgemein werden Auszüge aus Goethes berühmten Briefroman „Die Leiden des jungen Werthers“ (1774) gelesen. Dieser Roman machte Goethe berühmt - und im Seminar soll u.a. der Frage nachgegangen werden, worauf diese enorme und umstrittene Wirkung zurückzuführen ist, die bis heute anhält. Als Beispiel für die gegenwärtigen Goethe- und Werther-Rezeption wird der Film „Goethe!“ (2010) des Regisseurs Philipp Stölzl vorgestellt und besprochen.

到達目標

Die Studierenden lernen ein Hauptwerk der deutschsprachigen Literatur im Kontext zeitgeschichtlicher Bezüge kennen. Dabei werden literaturtheoretische Grundlagen (z.B. der Textanalyse, der Rezeptionstheorie und der Intertextualitätstheorie) vermittelt. Zudem wird durch die Filmanalyse grundlegendes medientheoretisches Wissen erarbeitet.

授業内容

実施回 内容

第1回	Einführung; Überblick
第2回	Goethe: Stationen des Lebens - Frankfurt
第3回	Leipzig
第4回	Straßburg
第5回	Frankfurt und Wetzlar
第6回	Weimar
第7回	Italien
第8回	Wieder Weimar
第9回	Klassik - Literatur im 18. Jahrhundert
第10回	Klassik - Literatur im 18. Jahrhundert II
第11回	Schiller
第12回	Der Film "Goethe!"
第13回	Der Film "Goethe!" Fortsetzung
第14回	Abschlussprüfung (Test)
第15回	Abschlussdiskussion

授業方法(対面授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer/Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

授業方法(遠隔授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit in break-out-rooms, Impulsanregungen durch die Teilnehmer/Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60 Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350110106	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(6)		
副題	Goethe und seine Zeit II		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Johann Wolfgang Goethe (1749-1832) prägte die deutschsprachige Literatur und Kultur in entscheidender Weise. Sein Leben, seine Werke und seine Zeitgenossen stehen im Mittelpunkt dieses Seminars. Ausgehend von einem leichtverständlichen Einführungstext über Goethe allgemein werden Auszüge aus Goethes berühmten Briefroman „Die Leiden des jungen Werthers“ (1774) gelesen. Dieser Roman machte Goethe berühmt - und im Seminar soll u.a. der Frage nachgegangen werden, worauf diese enorme und umstrittene Wirkung zurückzuführen ist, die bis heute anhält. Als Beispiel für die gegenwärtigen Goethe- und Werther-Rezeption wird der Film „Goethe!“ (2010) des Regisseurs Philipp Stölzl vorgestellt und besprochen.

到達目標

Die Studierenden lernen ein Hauptwerk der deutschsprachigen Literatur im Kontext zeitgeschichtlicher Bezüge kennen. Dabei werden literaturtheoretische Grundlagen (z.B. der Textanalyse, der Rezeptionstheorie und der Intertextualitätstheorie) vermittelt. Zudem wird durch die Filmanalyse grundlegendes medientheoretisches Wissen erarbeitet.

授業内容

実施回 内容

第1回	Wiederholung der Ergebnisse des letzten Semesters
第2回	Goethes "Werther" - Einführung
第3回	Überblickslektüre "Werther" I
第4回	Überblickslektüre "Werther" II
第5回	Überblickslektüre "Werther" III
第6回	Originallektüre "Werther" I
第7回	Originallektüre "Werther" II
第8回	Originallektüre "Werther" III
第9回	Originallektüre "Werther" IV
第10回	Originallektüre "Werther" V
第11回	Originallektüre "Werther" VI
第12回	Originallektüre "Werther" VII
第13回	Originallektüre "Werther" VIII
第14回	Abschlussprüfung (Test)
第15回	Abschlussdiskussion

授業方法(対面授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

授業方法(遠隔授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit in break-out-rooms, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60 Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350111101	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(1)		
副題	ドイツワイン学		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 対面授業		

授業概要

昨今、日本でもワインブームと言われていますが、ドイツワインの知名度はまだまだ低いようです。このゼミでは、ドイツワインを総合的に理解するために、その様々な側面に光を当てて、学んでいきます。品種や味など「味わう」面の比率はそれほど大きくなく、ワインを例として、現代の農業、流通、消費などの問題を中心に考えていきます。

到達目標

- ・ドイツワインの産地、品種、味などについて一通りの説明ができるようになること。
- ・ワインを通じて考えた、ドイツと日本の農業、流通、消費のあり方を理解し、説明できるようになること。
- ・ワインに関するドイツ語の基本的な文献を読めるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:授業の進め方、ワインとは
第2回	ドイツワイン総論;ワインの種類と品種
第3回	ドイツワイン総論;ドイツの13生産地域
第4回	読解:Grundlagen 1
第5回	読解:Grundlagen 2
第6回	読解:Wein und seine Stile 1
第7回	読解:Wein und seine Stile 2
第8回	読解:Wein und seine Stile 3
第9回	読解:Wein und seine Stile 3
第10回	ティスティングコメントを書く
第11回	参加者発表(1)
第12回	参加者発表(2)
第13回	参加者発表(3)
第14回	総括
第15回	達成度確認

授業計画コメント

受講者の関心等により、授業計画を変更する場合があります。
また、都合が付けば、ドイツワインの関係者に特別に講義をしてもらう回を設けます。

授業方法(対面授業の場合)

状況が許す限り対面式で行う。
演習形式で行う。教科書の読解に関しては、担当者が担当部分の日本語レジュメを作成し、報告する。その他、各自が設定したテーマについて発表する。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染状況によってはZoomによる同時配信型授業にする。
その場合も、演習形式で行う。教科書の読解に関しては、担当者が担当部分の日本語レジュメを作成し、報告する。その他、各自が設定したテーマについて発表する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定した資料の読解と要約(毎週1時間程度)。発表準備(学期中1回10時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点に関しては、毎回の資料をきちんと読み込んだ上で、積極的にディスカッションに参加すること。レポートは事実に即して、きちんと自分の意見を述べているかを評価のポイントにします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS(manaba)によりフィードバックします。

教科書

Workshop Wein, Marnie Old, Dorling Kindersley Verlag, 2020, 978-3831040100

教科書コメント

教科書は必ず購入してください。購入方法は受講生が確定したら指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。現代地域事情コース ゼミナール(1) と併せて履修すること。

その他

このゼミに関連する行事も企画し、ドイツワインの知識を多角的に深める予定です。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350111102	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(2)		
副題	ドイツワイン学(続)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 対面授業		

授業概要

昨今、日本でもワインブームと言われていますが、ドイツワインの知名度はまだまだ低いようです。このゼミでは、ドイツワインを総合的に理解するために、その様々な側面に光を当てて、学んでいきます。品種や味など「味わう」面の比率はそれほど大きくなく、ワインを例として、現代の農業、流通、消費などの問題を中心に考えていきます。

到達目標

- ・ドイツワインの産地、品種、味などについて一通りの説明ができるようになること。
- ・ワインを通じて考えた、ドイツと日本の農業、流通、消費のあり方を理解し、説明できるようになること。
- ・ワインに関するドイツ語の基本的な文献を読めるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:授業の進め方、1学期の復習
第2回	ドイツワイン総論;ドイツワインの流通事情
第3回	ドイツワイン総論;ドイツワインと環境保護
第4回	読解:Wie Wein entsteht 1
第5回	読解:Wie Wein entsteht 2
第6回	読解:Wie Wein entsteht 3
第7回	読解:Rebsorten und Regionen 1
第8回	読解:Rebsorten und Regionen 2
第9回	読解:Rebsorten und Regionen 3
第10回	ティスティングコメントをドイツ語で書く
第11回	参加者発表(1)
第12回	参加者発表(2)
第13回	参加者発表(3)
第14回	総括
第15回	達成度確認

授業計画コメント

受講者の関心等により、授業計画を変更する場合があります。
また、都合が付けば、ドイツワインの関係者に特別に講義をしてもらう回を設けます。

授業方法(対面授業の場合)

状況が許す限り対面式で行う。
演習形式で行う。教科書の読解に関しては、担当者が担当部分の日本語レジュメを作成し、報告する。その他、各自が設定したテーマについて発表する。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルス感染状況によってはZoomによる同時配信型授業にする。
その場合も、演習形式で行う。教科書の読解に関しては、担当者が担当部分の日本語レジュメを作成し、報告する。その他、各自が設定したテーマについて発表する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定した資料の読解と要約(毎週1時間程度)。発表準備(学期中1回10時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点に関しては、毎回の資料をきちんと読み込んだ上で、積極的にディスカッションに参加すること。レポートは事実に即して、きちんと自分の意見を述べているかを評価のポイントにします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS(manaba)によりフィードバックします。

教科書

Workshop Wein, Marnie Old, Dorling Kindersley Verlag, 2020, 978-3831040100

教科書コメント

前期で使用した教科書を引き続き使用します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。現代地域事情コース ゼミナール(1) と併せて履修すること。

その他

このゼミに関連する行事も企画し、ドイツワインの知識を多角的に深める予定です。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350111103	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(3)		
副題	日本におけるドイツ文化の受容		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 対面授業		

授業概要

過去そして現在において、日本でドイツ文化がどのように受容され、どのように認識され評価されたのか／されているのかについて考察します。ドイツ語という言語そのものとドイツ製のモノ(製品・技術)も「ドイツ文化」という概念に含めることとしたうえで、ドイツ文化受容の歴史と現状に関して具体的に調査します。現在の日本の日常生活のなかに見られるドイツ文化については、フィールドワーク的なアプローチも行います。扱うピックは各受講生に自由に考えてもらいますが、下の「授業内容」欄にいくつか例示を挙げておきます。

到達目標

日本におけるドイツ文化受容の歴史と現状を調べることによって、異文化理解のあり方に関する洞察力を深めること。また、所定の時間内に適確にプレゼンテーションする能力を高めること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	(例示)幕末期における「ドイツ学」者の登場、初めての独和辞典(1862年)
第3回	(例示)明治期におけるドイツ主義の採用(医学、憲法、独逸学協会学校)
第4回	(例示)1936～1945年:文化の枢軸(ヒトラーユージュントの来日、日独合作映画等)
第5回	(例示)グリム童話の受容と変容
第6回	(例示)音楽の受容(唱歌・童謡、バイエルピアノ教則本、テクノポップ)
第7回	(例示)日本におけるドイツ語学習の歴史
第8回	(例示)現在の日本の大学における独文科のカリキュラム内容の比較
第9回	(例示)ドイツ文化センター(Goethe-Institut)、ドイツ学術交流会(DAAD)の活動
第10回	(例示)イベント「日本におけるドイツ年2005/2006」
第11回	(例示)文房具(ステッドラー、Stabilo)、ヘッドホン(Sennheiser, beyerdynamic, AKG)
第12回	(例示)スポーツ用品(adidas, Puma)
第13回	(例示)ドイツ化学企業(メルク、BASF、バイエル、ヘキスト)
第14回	授業の総括
第15回	到達度の確認

授業方法(対面授業の場合)

受講生による発表(プレゼンテーション)と議論を中心に行う対面授業です。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルスの感染状況等に応じて、ZOOMによる同時配信型の遠隔授業を行う可能性もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生はプレゼンテーションを準備するにあたって、担当教員と個別にZOOM面談します。授業で扱う資料については事前にLMS(manaba)で配布しますので、各自資料をよく読んで理解を進めておいてください(60分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関しては、内容理解、論理構成、表現の正確さ、独自性、引用・出典明示を基準にして採点します。各受講生に文書または口頭(面談)で評価内容を伝えます。

参考文献コメント

授業中および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。

第1学期の現代事情コースゼミナール(4)と合わせて通年で履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350111104	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(4)		
副題	日本におけるドイツ(語圏)イメージ		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 対面授業		

授業概要

第1学期にドイツ文化受容の歴史と現在日本におけるドイツ文化の受け入れの具体例を調査したあと、第2学期には、日本におけるドイツ(語圏)のイメージについて調査・検討し、文化受容・文化理解のあり方について考えます。その際、雑誌やTV番組における取り上げられ方を分析したり、過去の新聞記事の検索をしたりすることで多角的な検討を心がけます。扱うトピックは各受講生に自由に考えてもらいますが、下の「授業内容」欄にいくつか例示を挙げてあります。

到達目標

日本におけるドイツ(語圏)イメージを検討することによって、日本文化との相対において「ドイツ文化」を把握するとともに、ステレオタイプなイメージ形成に関して批判的に考察する視点を得ること。また、所定の時間内に適確にプレゼンテーションする能力を高めること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	教員によるレクチャー:国語・国字問題の解決の模範国としてのドイツ
第3回	(例示)ドイツ車が選ばれる理由(質実剛健?)。
第4回	(例示)好まれる観光スポット(ロマンチック街道など)
第5回	(例示)ドイツ観光局が発信するドイツイメージ
第6回	(例示)食文化のイメージ(料理、菓子、Oktoberfest)
第7回	(例示)日本各地の「ドイツ村」のコンセプト
第8回	(例示)サッカー・ブンデスリーガがドイツの認知に果たした役割
第9回	日本のTV番組におけるドイツ(語圏)紹介(1)
第10回	日本のTV番組におけるドイツ(語圏)紹介(2)
第11回	日本の新聞におけるドイツ(語圏)への言及(1)
第12回	日本の新聞におけるドイツ(語圏)への言及(2)
第13回	日本の雑誌広告におけるドイツ(語圏)イメージ
第14回	授業の総括
第15回	到達度の確認

授業方法(対面授業の場合)

受講生による発表(プレゼンテーション)と議論を中心に行う対面授業です。

授業方法(遠隔授業の場合)

新型コロナウイルスの感染状況等に応じて、ZOOMによる同時配信型の遠隔授業を行う可能性もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生はプレゼンテーションを準備するにあたって、担当教員と個別にZOOM面談します。授業で扱う資料については事前にLMS(manaba)で配布しますので、各自資料をよく読んで理解を進めておいてください(60分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表(プレゼンテーション)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関しては、内容理解、論理構成、表現の正確さ、独自性、引用・出典明示を基準にして採点します。各受講生に文書または口頭(面談)で評価内容を伝えます。

参考文献コメント

授業中および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。
第1学期の現代事情コースゼミナール(3)と合わせて通年で履修すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350111105	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(5)		
副題	冷戦期の東西ドイツのナショナル・アイデンティティ		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

いまや自他ともに認めるヨーロッパの盟主国ドイツ。アメリカ批判も辞さないその姿勢が、今日、『ドイツ帝国』が世界を破滅させる(フランスの歴史人口学者エマニュエル・トッドによる新書のタイトル)と脅威の目を持って見られることもあります。ドイツが世界政治の舞台で自国の立場を明確に主張するようになってきたのは21世紀に入ってからのことです。EU連合における今日のドイツの在り方も「ヨーロッパのドイツ化」を推し進める(=ドイツがヨーロッパを支配下に置こうとしている)ものとして批判されていますが、第二次世界大戦後のドイツが目指してきたのはその逆の「ドイツのヨーロッパ化」で、これはもちろんナチ・ドイツの過去への反省から来るものでした。ドイツを、まずもってヨーロッパの一員と位置付け、脱国家主義的な欧州レベルの共同体の枠組みに置くことで、行き過ぎたナチ・ドイツ期の国家主義を乗り越えようとしたのです。

グローバルゼーション(脱国家主義)とナショナリズム(国家主義)という、相反するベクトルの働く今日にあって、両者のバランスはどうあるべきでしょう? 本ゼミナールでは、2学期のゼミナール(6)と合わせて、第二次世界大戦後のドイツを例に、この問題について考えます。1学期は冷戦期に注目して、西ドイツと東ドイツという両国家が、それぞれナショナル・アイデンティティをどこに見出し、どのような形でグローバル化を果たした・果たそうとしたかについて、皆で議論し、理解を深めます。

到達目標

- ・冷戦期の東西ドイツの歴史について、ナショナル・アイデンティティの観点から理解を深める。
- ・そのことを通して、冷戦期の世界秩序についても理解を深める。
- ・読んだテキストについて、あるいは他の人の意見や発表に対して、自らの意見が言えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	西ドイツ編① 1950年代: アデナウアーと「経済の奇跡」
第3回	西ドイツ編② 1960年代: 1968年の学生運動
第4回	西ドイツ編③ 1970年代: ブラント政権とドイツ赤軍派
第5回	西ドイツ編④ 1980年代: 「新しき不透明性」の時代
第6回	東ドイツ編① 1950年代: 社会主義国家の建設
第7回	東ドイツ編② 1960年代: 計画経済の発展と安定の時代
第8回	東ドイツ編③ 1970年代: 繁栄から危機へ
第9回	東ドイツ編④ 1980年代: 社会主義システムの行き詰まり
第10回	学生発表①
第11回	学生発表②
第12回	学生発表③
第13回	学生発表④
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業計画コメント

- ・ひとり1回、7～8分の口頭発表をしてもらいます。1学期は、こちらが提示する文献の中から1冊選んでもらい、その文献に沿って発表してもらうことを考えています。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

授業方法(対面授業の場合)

現時点では対面授業を考えています。感染対策を行いつつ、グループワークも取り入れて授業を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔に切り替える必要が出てきた場合は、Zoomを使った同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通文献(30頁程度)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間～1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	口頭発表

成績評価コメント

・口頭発表では、準備過程も評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

教科書

戦後ドイツ—その知的歴史—,三島憲一,岩波出版社,1991

物語 東ドイツの歴史—分断国家の挑戦と挫折—,河合信晴,中央公論社,2020

教科書コメント

各自、第一回目の授業までに購入しておいてください。

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・現代地域事情コース ゼミナール(6)もあわせて履修すること

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350111106	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(6)		
副題	統一ドイツのナショナル・アイデンティティ		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

いまや自他ともに認めるヨーロッパの盟主国ドイツ。アメリカ批判も辞さないその姿勢が、今日、『ドイツ帝国』が世界を破滅させる(フランスの歴史人口学者エマニュエル・トッドによる新書のタイトル)と脅威の目を持って見られることもあります。ドイツが世界政治の舞台で自国の立場を明確に主張するようになってきたのは21世紀に入ってからのことです。EU連合における今日のドイツの在り方も「ヨーロッパのドイツ化」を推し進める(＝ドイツがヨーロッパを支配下に置こうとしている)ものとして批判されていますが、第二次世界大戦後のドイツが目指してきたのはその逆の「ドイツのヨーロッパ化」で、これはもちろんナチ・ドイツの過去への反省から来るものでした。ドイツを、まずもってヨーロッパの一員と位置付け、脱国家主義的な欧州レベルの共同体の枠組みに置くことで、行き過ぎたナチ・ドイツ期の国家主義を乗り越えようとしたのです。

グローバルゼーション(脱国家主義)とナショナリズム(国家主義)という、相反するベクトルの働く今日にあって、両者のバランスはどうあるべきでしょう? 本ゼミナールでは、1学期のゼミナール(5)と合わせて、第二次世界大戦後のドイツを例に、この問題について考えます。2学期は統一後のドイツに注目して、①東西ドイツの統一がそれぞれの地域にどのような変容をもたらしたか、②冷戦後の世界秩序の変容のなかで、統一ドイツがどのような立ち位置を得るにいったか、③そのもとでドイツがどのような主張を展開するようになったか、④それらの主張はドイツ脅威論者の説くような「ドイツの国益主義」と理解するのが妥当なのだろうか、といった問いを手掛かりに、統一ドイツの「脱国家主義的な国家主義」ともいえるナショナル・アイデンティティについて議論していきます。

到達目標

- ・再統一したドイツの変容について理解を深める。
- ・そのことを通して、冷戦後の新世界秩序についても理解を深める。
- ・読んだテキストについて、あるいは他の人の意見や発表に対して、自らの意見が言えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	第1章 ドイツ統一
第3回	第2章 統一のきしみ
第4回	第3章 ネオナチの暴力
第5回	第4章 中部ヨーロッパの大国?
第6回	第5章 新たな国際情勢の中で
第7回	第6章 過ぎ去らない過去
第8回	第7章 EU統合の深化とカントの希望の再生
第9回	学生発表①
第10回	学生発表②
第11回	学生発表③
第12回	学生発表④
第13回	学生発表⑤
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業計画コメント

- ・ひとり一回、こちらが提示したテーマの中から一つ選んで10分程度の口頭発表をしてもらう予定です。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

授業方法(対面授業の場合)

現時点では対面授業を考えています。感染対策を行いつつ、グループワークも取り入れて授業を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔に切り替える必要が出てきた場合は、Zoomを使った同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通文献(30頁程度)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間～1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		

学年末試験(第2学期)

中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備過程も評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

教科書

現代ドイツ統一後の知的軌跡,三島憲一,岩波出版社,2006

教科書コメント

各自、第一回目の授業までに購入しておいてください。

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・現代地域事情コース ゼミナール(5)もあわせて履修すること

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350200101	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(1)		
副題	日常に息づく文化		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	田中 雅敏		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

“どんな優秀な人でも失敗することがある”ということの意味する諺に出てくる動物は、日本語であれば「猿」、イタリア語では「馬」、デンマーク語では「鶏」などである。これらの動物が、なぜそれぞれの文化圏において選択されているのか。それらの動物が用いられる諺には、それぞれの文化圏において他にどのようなものがあるか。インド=ヨーロッパ語族においては「8」が重要であり、フランス語のneufもサンスクリット語のnavaも「新しい」と「9」の両方の意味を持ち、8を超えることで「更新」を意味している。企業のコーポレートカラーに見られるような、色を用いたイメージ戦略はなぜ有効に働くのか。成句や諺に出てくる動物のイメージ、聖数と言われる数の持つイメージや力、特定の色から人が感じる力やイメージは、文化圏を横断的に見た場合、差違もあり、また共通する部分もある。共通に流れている認識・世界観は何か、また異なるイメージを生みだしている要因は何かという問いを切り口に、言葉を紐解きながら、世界観や価値観というものを多角的に見ることを目指す。日本語による資料の他、英語やドイツ語の資料も参照する。

到達目標

文化圏を、国や言語圏ごとに分けた場合の自文化と他文化(異文化)という切り口もあるが、究極的には自分という個人にとって、自分以外の他者の価値観もすべて異文化である。多角的な視野の形成を目指しつつ、多様性について考える機会とする。日本語・英語・ドイツ語のテキスト読解力を向上させる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス・アンケート等・連絡体制
第2回	異文化の諸相
第3回	文献講読[動物](1)
第4回	文献講読[動物](2)
第5回	文献講読[動物](3)
第6回	文献講読[数字](1)
第7回	文献講読[数字](2)
第8回	文献講読[数字](3)
第9回	文献講読[色](1)
第10回	文献講読[色](2)
第11回	文献講読[色](3)
第12回	文献講読[題材未定](1)
第13回	文献講読[題材未定](2)
第14回	視聴覚教材
第15回	まとめ

授業方法(対面授業の場合)

遠隔・同時配信型(使用ツールはZoomです)

<https://us02web.zoom.us/j/89058369899?pwd=d1Jya2xKUGxlNmNBRFcySzkraEZsdz09>

ミーティングID: 890 5836 9899

パスコード: 772815

授業方法(遠隔授業の場合)

定刻になったらZoomに集まる。

参加者はビデオON(背景等はフィルターをかけるなど工夫してください)・音声OFF(発言は基本的にはチャットで考えていますが、音声ONにしての発言を求めることもあります。)

対面授業に準じるため、録画はしない。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布された指定資料を読み、要点と批判点等をまとめること。資料はただ書いてあることをまとめるだけでなく、「自分ならそうは考えない」「この点は根拠に乏しい」など、気になるポイントをメモしながら、批判的に読むこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

参考文献は批判的に読めているか、ネット上の資料ばかりでなく参考図書も手に取れているか、具体的な例示をもって論を展開できているか、等を評価する。平常点は、授業内の発言(チャット等)の内容や積極度合いを見る。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末レポートは、第15回の授業で匿名で共有し最終ディスカッションができるよう、第14週を期日に提出を求める(詳細は授業内で伝える)。コメントを付して、個々人に返却する。その際、採点ポイント等も開示する。

教科書コメント

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350200102	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(2)		
副題	ヨーロッパの言語		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	瀬川 真由美		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

地球上には6000から8000種類もの言語が存在すると言われているが、中でもインド・ヨーロッパ語族は地理的に広範囲にわたり分布している。ドイツ語や英語をインド・ヨーロッパ語族のクルガン人までさかのぼり、ヨーロッパにおける民族の移動や言語の定着を解説する。神話や童話に登場する動物をモチーフとしたドイツ語の諺を紹介する。

到達目標

古代から続く、民族、言語、宗教、文化が存在するという基礎的概念を理解し、グローバルな人材として必要な国際的教養を習得し、世界の情勢や多様性を客観的に把握できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入－言語とは何か
第2回	言語の同異－世界の言語
第3回	言語の発生
第4回	ヨーロッパの言語の概念
第5回	インド・ヨーロッパ語族
第6回	ヨーロッパに散らばる様々な言語(1)西ヨーロッパ
第7回	ヨーロッパに散らばる様々な言語(2)北ヨーロッパと東ヨーロッパ
第8回	スペイン語の成立の概観
第9回	イベリア半島の民族史
第10回	スラヴの言語
第11回	英語の歴史(1)時代区分
第12回	英語の歴史(2)音/文字/語順/語彙
第13回	ドイツ語の歴史(1)紀元前から6世紀ごろまで
第14回	ドイツ語の歴史(2)5世紀以降
第15回	ゲルマンの民族移動のまとめ

授業計画コメント

ドイツ語の知識がなくても十分に理解できる内容です。授業時間内の質疑応答、課題の作成などでシラバスに記載されている予定が若干変更になる可能性があります。

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は実施しない。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用したリアルタイム型オンライン授業を行う予定です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前にシラバス記載のテーマについて調べておくこと(2時間)。

授業後にノートを整理しておくこと(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		学期末試験は実施しない。
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは情報の分析と独自の考察の成果を評価する。
小テストは確実に授業の内容を理解しているのかを評価する
平常点は授業時間内の質疑応答の成果を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題やレポートは実施後に採点し返却を予定しています。講評はクラス全体に行います。

教科書コメント

作成した資料を提示する。

参考文献

猫の嘆きと白ネズミ,瀬川真由美,白水社,初,1996,4-560-00466-8

参考文献コメント

博物学的観点からドイツ語の動物を含む諺を集めた書籍です。すべて日本語訳を付してありますので、ドイツ語の知識がまったくなくても理解できます。

履修上の注意

ドイツ語の知識がなくても受講可能です。

その他

楽しんで授業に参加してください。Web classで運営予定です。初回の授業で運営方法と評価について説明する予定です。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350200103	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(3)		
副題	ヒトラー演説 1920～1933年		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

本講義では、四半世紀にわたるヒトラー演説がナチズムにおいて果たした役割を政治的・歴史的な文脈と関係づけながら言語学の視点から解明することを試みます。それは、ヒトラー自身も気づかなかったはずのヒトラー演説の変容を、時間軸に沿って追ってみることです。ヒトラー演説をレトリックという面から分析するとともに、使用された語彙の変遷を統計学的手法で分析するなどして、ヒトラー演説の実像に迫ります。第1学期は、ナチ党が政権を掌握するまでに至る「ナチ運動期」(1933年1月まで)を扱います。

到達目標

ヒトラーの語りを分析することを通じて、現在のそして未来の為政者の語りを冷静に批判的に聞き取る知見と観点を養うこと。為政者の計算されたことば遣いに騙されない感性を養うこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	《導入》レトリックの基礎概念
第2回	《導入》キング牧師、オバマ元大統領の演説におけるレトリック
第3回	《導入》政治家のことば:スローガンと婉曲語法
第4回	★「指導者」としての語り(1920～1923年)★
第5回	★「ミュンヘン一揆」の精算演説(1924年)★
第6回	★『わが闘争』における演説理論(1924・25年)★
第7回	★禁止された演説(1925～1927年)★
第8回	★拡声装置で広がる肉声(1928年)★
第9回	《クローズアップ》「ヒトラー演説150万語データ」による統計学的分析
第10回	★選挙戦で集票する演説(1930～1932年)★
第11回	★政権掌握:ラジオと銀幕に乗る演説(1933年)★
第12回	《補足》首相就任時の演説分析—ジェスチャー、声、レトリック
第13回	《補足》「全権委任法」(1933年3月)
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は行いません。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業で、ZOOMによる同時配信型授業を行います。要点を整理しまとめたプリントをLMS(manaba)によって配布します。それに基づきながら、動画や音源などを駆使して授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書およびあらかじめ配布する資料に目を通して、授業内容の理解を助ける(30分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	コメントペーパー

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出してもらったコメントペーパーに書かれた質問などについては、次の冒頭で取り上げて解説を加えます。

教科書

ヒトラー演説－熱狂の真実,高田博行,中央公論新社,2014

参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の授業ですが、他学科・他学部の学生も受講することができます。ドイツ語の知識がない学生も理解できるよう補足説明するなど、十分に配慮して授業を進めます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350200104	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(4)		
副題	ヒトラー演説 1933～1945年		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

本講義では、四半世紀にわたるヒトラー演説がナチズムにおいて果たした役割を政治的・歴史的な文脈と関係づけながら言語学の視点から解明することを試みます。それは、ヒトラー自身も気づかなかったはずのヒトラー演説の変容を、時間軸に沿って追ってみることです。ヒトラー演説をレトリックという面から分析するとともに、使用された語彙の変遷を統計学的手法で分析するなどして、ヒトラー演説の実像に迫ります。第2学期は、ナチ党が政権を掌握して以降のナチ政権下の演説を扱います。

到達目標

ヒトラーの語りを分析することを通じて、現在のそして未来の為政者の語りを冷静に批判的に聞き取る知見と観点を養うこと。為政者の計算されたことば遣いに騙されない感性を養うこと。

授業内容

実施回 内容

- 第1回 ★総統の演説舞台(1933～1934年)★
- 第2回 《補足》ヒトラーユーゲントの青少年たちの演説体験
- 第3回 《補足》イベントとしてのナチ党大会
- 第4回 ★領土拡大の演説(1935～1938年)★
- 第5回 《補足》オーウェルの小説『1984年』:ダブル・スピーク
- 第6回 《補足》プロパガンダとしてのベルリンオリンピック(1936年)
- 第7回 ★戦時態勢の演説(1939年)★
- 第8回 《補足》ポスターによるプロパガンダ
- 第9回 ★国民の共感を失った演説(1940～1941年)★
- 第10回 《補足》チャップリンの映画『独裁者』-最後の6分間の演説
- 第11回 ★機能停止した演説(1942～1945年)★
- 第12回 《補足》現代ドイツの右翼ポピュリスト政治家におけるナチ語彙の復活
- 第13回 《補足》映画『帰ってきたヒトラー』のメッセージ
- 第14回 総括
- 第15回 到達度の確認

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は行いません。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業で、ZOOMによる同時配信型授業を行います。要点を整理しまとめたプリントをLMS(manaba)によって配布します。それに基づきながら、動画や音源などを駆使して授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書およびあらかじめ配布する資料に目を通して、授業内容の理解を助ける(30分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	コメントペーパー

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出してもらったコメントペーパーに書かれた質問などについては、次の冒頭で取り上げて解説を加えます。

教科書

ヒトラー演説－熱狂の真実,高田博行,中央公論新社,2014

参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の授業ですが、他学科・他学部の学生も受講することができます。ドイツ語の知識がない学生も理解できるよう補足説明するなど、十分に配慮して授業を進めます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350201101	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(1)		
副題	ドイツ語圏の文学・文化入門		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

ドイツ語圏の文学・文化を初めて学ぶ学生を基本的な対象とし、ドイツ語圏の文学・文化について幅広く解説します。文学を読まない学生が増えているとしばしば指摘されますが、異国の歴史・社会・政治・経済等を理解するのに文学ほど容易で楽しい手段はありません。授業では、特にドイツの社会・政治と深いかわりを持つ作品を中心に取り上げ、ドイツという国の幅広い理解につなげます。また、美術・音楽・建築等の文化についても解説することで、立体的な理解を促します。

到達目標

ドイツの文学・美術・音楽・建築等について基礎的な知識を得ること。

授業内容

実施回	内容
第1回	ドイツ語圏の文学と文化を学ぶとは:『エスターハージー王子の冒険』とベルリンの壁
第2回	映画『グッバイ、レーニン!』とドイツの再統一
第3回	映画『愛より強く』とドイツの移民問題
第4回	啓蒙主義の時代:レッシング『エミーリア・ガロッティ』『賢人ナータン』
第5回	シュトゥルム・ウント・ドラングから古典主義へ:ゲーテ『若きウェルテルの悩み』
第6回	ロマン派:グリムとハイネ
第7回	近代ドイツの女性像:ゲーテ『ファウスト』、グリム『白雪姫』
第8回	ビスマルクの時代:ハウプトマン『日の出前』
第9回	世紀転換期～表現主義:クリムト、バウハウス、ベックマン
第10回	ユダヤ人問題と文学①カフカ『変身』
第11回	ユダヤ人問題と文学②『夜と霧』
第12回	トーマス・マンとその時代
第13回	過去の克服:ベルンハルト・シュリンク、ギュンター・グラス
第14回	ドイツの児童文学:ケストナー『点子ちゃんとアントン』、エンデ『モモ』
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

講義形式で行います。基本的に遠隔での授業を想定しています。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用した同時配信型の授業。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で紹介する作品を部分的に事前に読んできてもらいます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	小レポート

成績評価コメント

授業後に毎回理解度を確認する小レポートを提出してもらいます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に随時小レポートへのコメントを行います。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350201102	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(2)		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	飯田 道子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 対面授業		

授業概要

映像における表象について、サイレントの時代から1940年代までのドイツ映画の重要な作品をとりあげて検証する。講義の後半では、20世紀後半の文化において最も重要な問題であると思われるホロコーストについて、ドイツ映画だけでなく、50年代以降の「ホロコースト映画」の重要な作品をとりあげて、映像におけるホロコーストの表象の可能性と不可能性について考える。

到達目標

映像におけるさまざまな表象について注目し、時代状況や文化的コンテキストの中で映像作品をみる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	黎明期の映画
第3回	サイレント時代の映画の表象
第4回	サイレント映画をみる
第5回	映画における音
第6回	戦争と映画
第7回	ホロコーストの表象『夜と霧』
第8回	ホロコーストの表象の不可能性『SHOAH』
第9回	ホロコーストの表象の可能性
第10回	ホロコーストの新たな表象1
第11回	ホロコーストの新たな表象2
第12回	ホロコーストの新たな表象3
第13回	ヒトラーとナチスの表象
第14回	ヒトラーとナチスの新たな表象
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

講義形式

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔になった場合はオンデマンド配信を行う

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で扱った映画はみておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	リアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

各回の授業のリアクションペーパーと学期末に行う記述形式の試験によって評価します

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でフィードバックします

教科書コメント

レジユメを配布します

参考文献

フィルムアート 映画芸術入門,ボードウェル、トンプソン,名古屋大学出版会,2007,978-4-8158-0567-8
複製技術時代の芸術作品,ヴァルター・ベンヤミン

参考文献コメント

授業内に適宜指示します

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350201103	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(3)		
副題	オーストリアの歴史と文化		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	関根 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 対面授業		

授業概要

音楽の都と呼ばれるウィーンを首都としたオーストリアは、現在はヨーロッパの一小国にすぎませんが、20世紀初頭まではハプスブルク家によって600年以上も統治され、10以上の民族を支配した多民族国家ハプスブルク帝国を形成していました。本講義では、なぜウィーンは「音楽の都」になったのかという疑問に始まり、この国の文化の豊かさについて、歴史的側面から社会と芸術・文化との関係で考察していきます。

到達目標

ウィーンを中心としたオーストリアの歴史について学びながら、それぞれの時代の社会と芸術文化の密接な関係を理解し、知識を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション 講義の進め方 オーストリア、ウィーンについて
第2回	ハプスブルク家による支配の始まり 中世のウィーン社会
第3回	マクシミリアン1世の結婚とハプスブルク帝国の拡大 ウィーン少年合唱団の歴史
第4回	宗教改革と反宗教改革の音楽
第5回	オスマン帝国の脅威と影響
第6回	バロックと啓蒙主義
第7回	マリア・テレジアの時代 フランス革命の影響
第8回	ヨーゼフII世とモーツァルトのオペラ
第9回	ナポレオン戦争の影響 ベートーヴェンと革命
第10回	ウィーン会議とウィンナワルツ
第11回	ビーダーマイヤーの時代 シューベルト
第12回	ヨハン・シュトラウス親子と1848年革命
第13回	フランツ・ヨーゼフの治世
第14回	エリーザベト像の変遷
第15回	まとめ

授業方法(対面授業の場合)

講義

授業方法(遠隔授業の場合)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書を読み、歴史について予習しておくこと。授業で興味を持った音楽などは、自分でもCDやYOUTUBEで鑑賞しましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

講義を理解し、正確な知識を持ち、個々の事象について、論理的に説明できるかどうか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学習理解の足りない傾向にある事柄が、試験でわかったときには、再度説明し、理解を深めさせる。

教科書

図説 ハプスブルク帝国: ふくろうの本,加藤雅彦,河出書房,2018
2016

参考文献

ウィーンの歴史: ふくろうの本,増谷秀樹,河出書房新社,2018,978-4-309-76245-6
世紀末ウィーン,カール・E・ショースキー著/ 安井琢磨訳,岩波書店,第1,1983,400-00-001160-X
オーストリア文学とハプスブルク神話,クラウディオ・マグリス著 鈴木隆雄訳,水声社,第1,1990,4-89176-237-3 c0098

履修上の注意

ドイツ語が未修でも受講可能です。オーストリアや文化に対する関心の高い学生を希望します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350201104	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(4)		
副題	オーストリア 音楽の都ウィーンの歴史と文化		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	関根 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 対面授業		

授業概要

第1学期では19世紀後半までのハプスブルク帝国の歴史をたどりながら、各時代、社会を反映した芸術(文学、音楽、建築)などを紹介してきました。第2学期では、700年間続いたハプスブルク帝国が崩壊に向かう19世紀末から20世紀初頭に華開いたいわゆる「ヴィーン世紀末」や第一次世界大戦後の継承国オーストリアが辿った20世紀の歴史、文化アイデンティティを考察します。キーワードは「ハプスブルク神話」です。授業では、たくさんの視聴覚資料を紹介します。

到達目標

多民族国家ハプスブルク帝国の末期の社会、文化状況、および崩壊後から現代までの政治、社会、文化状況を学ぶことによって、対象的な様相の日本と比較考察できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	「ハプスブルク神話」とは？:第1学期の復習と今後の予定
第2回	文学の中の「ハプスブルク神話」:ヨーゼフ・ロート『ラデツキー行進曲』、シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』
第3回	世紀末美術:分離派とジャポニスム(1)グスタフ・クリムトにおける愛と死、ジャポニスム「黄金のアデーレ」
第4回	世紀末美術:分離派とジャポニスム(2)ヨーゼフ・ホフマンとヴィーン工房
第5回	オペラの中の「ハプスブルク神話」:ホフマンスタール台本R.シュトラウス作曲『ばらの騎士』
第6回	明治・大正の日本とオーストリア:ホフマンスタール『エレクトラ』の日本公演をめぐる(森鷗外・松居松葉との文通)
第7回	反ユダヤ主義とシオニズム、翻弄される芸術家たち:グスタフ・マーラーとシェーンベルク
第8回	夢と深層心理の追求:フロイトとシュニッツラー
第9回	銀時代のオペレッタのとハプスブルク神話:レハール『メリー・ウイドウ』、カールマン『チャルダッシュの歌姫』、ベナツキー『白馬亭』第一次世界大戦勃発とハプスブルク帝国の崩壊
第10回	ローベルト・ムージル『特性のない男』
第11回	両大戦間のオーストリア:ナチス・ドイツに併合されるまで、ザルツブルク祝祭の設立、オーストリアの文化アイデンティティ
第12回	ヒトラーとヴィーン:「ドイツ人になりたかったオーストリア人」、『サウンド・オブ・ミュージック』の虚実〜トラップ一家の実像、ベルンハルト『ヘルデンブラッツ』
第13回	第二次世界大戦後のオーストリア、戦後処理の問題点と国際社会への復帰、永世中立国、ヴァルトハイム事件まで フンデルトヴァッサーの芸術と社会的活動
第14回	21世紀の観光都市としてのウィーン、ニューイヤークンサート、オペラ座舞踏会 of the history
第15回	到達度確認

授業計画コメント

毎回、講義内容について質問、意見、感想または個別の課題を書いて提出していただき、平常点に反映させます。

授業方法(対面授業の場合)

講義

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当部分を読むか、関連書やネットを利用して、予習することが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回の課題の内容で、授業への積極的な参画を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題の内容(質問、意見、感想)をもとに、講義や配布資料に反映する。

教科書

図説 ハプスブルク帝国,加藤雅彦,河出書房新社,1995,4309724957

参考文献

ハプスブルク家,江村洋,講談社,1990

図説ウィーンの歴史:ふくろうの本,増谷秀樹,河出書房新社,2016,9784309762456

ハプスブルク家:図解雑学,菊池良生,ナツメ社,2008,9784816344749

世紀末ウィーン,カール・ショースキー,岩波書店,1983

ウィーン精神,W.M.ジョンストン,みすず書房,1986

参考文献コメント

その他、洋書、個別テーマに関する参考文献については授業時に指示します。

その他

オーストリアや音楽に高い関心を持っている学生を歓迎します。ただしドイツ語や音楽の特別な知識は必要としません。毎回のリアクションペーパーの内容を重視します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350202102	科目ナンバリング	035A531
講義名	現代地域事情 講義(2)		
副題	スイスと「アイデンティティ」		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	松鶴 功記		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

スイスにとって言語・文化の多様性が重要な基盤であることを、連邦国家成立の道のりをたどりながら解説する。その上で20世紀、ふたつの大戦においてスイスが国際的に取った武装中立の立場と、国内での文化政策「精神的国土防衛」の成り立ちについて解説し、それらが戦後スイス社会に及ぼした影響を考察していく。

到達目標

スイス連邦国家の成立事情、20世紀スイス社会の特徴を理解し、第二次世界大戦でのドイツとの関係、その際のスイスの複雑な立場、戦後の歴史認識等の問題について考察を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	スイスの基礎知識
第2回	スイス連邦成立1:永久同盟から13世紀同盟時代
第3回	スイス連邦成立2:傭兵制と中立～宗教戦争
第4回	スイス連邦成立3:ヘルヴェチア共和国～連邦成立
第5回	直接民主制:連邦議会とカントン(地方自治)
第6回	他言語国家スイス
第7回	言語圏間の相互理解
第8回	ふたつの大戦と文化政策「精神的国土防衛」
第9回	1939年スイス博覧会と「ナショナル・アイデンティティ」
第10回	「自由の砦」?:劇場チューリヒ・シャウシュピールハウスと難民
第11回	戦後のスイス:1968年学生運動/女性参政権
第12回	スイスの「過去の克服」:ベルジエ報告書
第13回	外国人問題とスイスの課題
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

講義形式で授業を行う。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用した同時配信授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各テーマに関して配布する資料を参照し、授業内容を補足・確認すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

・平常点:毎回提出してもらったアクションペーパーによって授業の理解度・参加度を判断する。
 ・レポート:授業内容から各自でテーマを選び執筆する。たんなる参考文献のまとめではなく、授業内容を反映し考察が加えられていることを評価する。

・両者の評価点の総計で成績を決定する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容について、次回授業で補足説明する・または授業に反映させる。また必要に応じて追加の資料を配付する。

参考文献

スイスを知るための60章: エリアスタディーズ128, スイス文学研究会(編), 明石書店, 2014, 9784750339788

スイスの歴史: 刀水歴史全書43, U・イムホーフ/森田安一(訳), 刀水書房, 2003, 9784887082076

スイスの歴史-スイス高校現代史教科書<中立国とナチズム>: 世界の教科書シリーズ27, ペーター・ガウチ、ヤン・ホーデル、グレーゴル・シュプラー/スイス文学研究会(翻訳), 明石書店, 2010, 9784750331409

中立国スイスとナチズム-第二次世界大戦と歴史認識, 独立専門家委員会スイス=第二次大戦第一部原編/黒澤隆文編訳; 川崎亜紀子, 尾崎麻弥子, 穂山洋子(訳著), 京都大学学術出版会, 2010, 9784876989652

もうひとつのスイス史-独語圏・仏語圏の間の深い溝: 刀水歴史全書83, クリストフ・ビュヒ/片山淳子(訳), 刀水書房, 2012, 9784887083950

参考文献コメント

授業内で適宜参考文献を紹介する。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350202104	科目ナンバリング	035A531
講義名	現代地域事情 講義(4)		
副題	現代ドイツ政治外交史		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	板橋 拓己		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 対面授業		

授業概要

本講義では、第二次世界大戦後から現代にまでいたるドイツ連邦共和国の政治を学ぶ。とりわけ、世界大戦や冷戦(とその終焉)がもたらした国際政治のマクロな構造変動や、国内の社会・経済の動向、そしてヨーロッパ統合の進展に留意しつつ、ドイツの内政と外交を分析する。

到達目標

専門分野の知識を深め、新しい視座を形成するため、次の2点を到達目標とする。

- 1)ドイツ政治の歴史と特徴を理解する。
- 2)ドイツの事例をもとに、比較の視座から現代日本政治を考えられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	現代ドイツ政治を学ぶ意義
第2回	占領から分断へ
第3回	西側結合の選択:アデナウアー政権(1)
第4回	社会国家の建設:アデナウアー政権(2)
第5回	変動と転換の時代:エアハルト政権とキージンガー政権
第6回	東西緊張緩和への貢献と「もっとデモクラシーを」:ブランド政権
第7回	危機管理の時代:シュミット政権
第8回	ボン共和国の成熟:コール政権(1)
第9回	社会主義国家の建設:東ドイツ(1)
第10回	安定から危機へ:東ドイツ(2)
第11回	ベルリンの壁崩壊から東西ドイツ統一へ
第12回	「ボン共和国」から「ベルリン共和国」へ:コール政権(2)
第13回	「赤緑」の挑戦:シュレーダー政権
第14回	危機対応と改革の継続:メルケル政権
第15回	まとめ

授業計画コメント

進行状況に応じて、内容は変更しうる。

授業方法(対面授業の場合)

講義形式の授業。テーマ毎に配布するレジュメと資料に沿って講義する。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoom を使用した同時配信型授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回のレジュメとノートを読み返す。また、次回分の教科書該当箇所を読んでくる(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	対面での試験が実施不可能となった場合、レポートに替える。
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

詳細は講義のなかで指示する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントをもとに、講義への反映や資料配布等を行う。

教科書

現代ドイツ政治外交史,板橋拓己・妹尾哲志(編),ミネルヴァ書房,近刊

教科書コメント

講義は本書に基づくが、授業開始時までには刊行が間に合わない可能性がある。いずれにせよ、教科書を持参していなくとも理解できる講義をする予定である。

参考文献

現代ドイツの外交と政治,森井裕一,信山社,2008,9784797232813

アデナウアー——現代ドイツを創った政治家,板橋拓己,中央公論新社(中公新書),2014,9784121022660

物語 東ドイツの歴史——分断国家の挑戦と挫折,河合信晴,中央公論新社(中公新書),2020,9784121026156

ドイツ統一,アンドレアス・レダー,岩波書店(岩波新書),2020,9784004318477

Geschichte der Bundesrepublik Deutschland,Dominik Geppert,C.H. Beck,2021,9783406773426

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350202106	科目ナンバリング	035A531
講義名	現代地域事情 講義(6)		
副題	ナチ時代のドイツとホロコースト		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	川喜田 敦子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

ヴァイマル共和国の崩壊からナチ時代にかけてのドイツ現代史について、①ヒトラーという人物、②ヴァイマル共和国の崩壊、③ユダヤ人大量殺害への道、という3つの観点から解説する。各トピックの概略に加えて、研究動向と主要な先行研究についても解説する。また、トピックごとに関連する史料を具体的に取り上げ、史料批判に基づいて歴史記述を組み立てる方法についてもあわせて考えたい。

到達目標

- (1)ヴァイマル共和国の崩壊からナチ時代にかけてのドイツ現代史について基本的な知識を習得する。
- (2)ヴァイマル共和国の崩壊からナチ時代にかけてのドイツ現代史について研究動向を把握する。
- (3)ドイツ現代史における史料批判の方法について理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクションードイツ現代史を考える
第2回	ヒトラーという人物【概説】①少年時代から第一次世界大戦
第3回	ヒトラーという人物【概説】②第一次世界大戦後のドイツ
第4回	ヒトラーという人物【研究動向】
第5回	ヒトラーという人物【史料】
第6回	ヴァイマル共和国の崩壊【概説】①大統領内閣と大統領緊急令
第7回	ヴァイマル共和国の崩壊【概説】②独裁体制の確立
第8回	ヴァイマル共和国の崩壊【研究動向】
第9回	ヴァイマル共和国の崩壊【史料】
第10回	ユダヤ人大量殺害への道【概説】①人種主義・反ユダヤ主義・優生思想
第11回	ユダヤ人大量殺害への道【概説】②組織的殺害へ
第12回	ヴァイマル共和国の崩壊【研究動向】
第13回	ヴァイマル共和国の崩壊【史料】
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業方法(対面授業の場合)

講義

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用した同時配信型授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内に配布された資料、ノート等を読み返すとともに、各人の関心に応じて授業内に紹介された参考文献を参照すること(約1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	コメントペーパーの内容も評価の対象となる
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

対面での試験が実施不可となった場合には、オンライン試験を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。

参考文献コメント

参考文献は授業内に指示する。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350300101	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(1)		
副題	モーツァルト一家の手紙文—ドイツ語史と音楽史の交点		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	佐藤 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 対面授業		

授業概要

オーストリアでは、神聖ローマ帝国官房の伝統を汲むウィーンの記事語(東上部ドイツ語)が長らく模範的なことばとして用いられてきましたが、18世紀に入ると次第に声望を失っていきました。ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)が生まれた18世紀中葉には、オーストリアにおける記事語が、ライプツィヒやドレスデンを中心とする東中部ドイツ語型の標準記事語に切り替わっていきます。この授業で扱うモーツァルト家の人々(両親、姉、息子たち)が書いた手紙文は、まさに18世紀中葉から19世紀前半にかけてオーストリアの記事語が標準していくプロセスを見せてくれます。この授業では、モーツァルト家の人々が残した手紙文を読み進めることによって、彼らの生活を言語と音楽活動の面から垣間見たいと思います。ことばに厳格な父親、オーストリア的なことばを多く織り交ぜる母親と姉、放埒さにもかかわらず案外ときちんとしたドイツ語を書くモーツァルトなど、表情豊かな様子が見えてくるでしょう。

第1学期はモーツァルト誕生(1756年)から母の死(1778年)までの時期に書かれた手紙を扱います。受講生のみなさんには、予習をした内容を踏まえてグループで日本語訳を作り、発表してもらいます。各授業の最後には、学習した事柄についての意見や感想を書いたコメントペーパーをmanaba経由で提出していただきます。テキストの講読と並行して、受講生にはモーツァルトに関する個人発表(パワーポイント等によるプレゼンテーション)をしてもらいます。口頭発表のあとには、まずグループごとに発表内容についてディスカッションをし、その後の全体討論を経て理解を深めます。発表資料の作り方や発表の仕方等に関しては、具体的に指導します。

到達目標

- ・ 18世紀末のドイツ語、オーストリア語法を含むドイツ語テキストを読む力を養成する。
- ・ 言語のみならず、芸術・文化に関する分野についての背景知識を身につけることで、ドイツ語テキストを総合的に研究し、分析できるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期の授業についての説明
第2回	ドイツ語史概説
第3回	《父レオポルトの書簡に見られる書法上(綴り方)の特徴(1)》 手紙講読:モーツァルト誕生(1755年:モーツァルト0歳)
第4回	《18世紀ドイツ語に見られる書法上(綴り方)の特徴(2)》 手紙講読:家族の大旅行(1762年:モーツァルト6歳)
第5回	《父レオポルトの書簡における方言的要素》 手紙講読:父子のイタリア旅行(1769年:モーツァルト13歳)
第6回	《少年時代のモーツァルト書簡における文法的特徴》 手紙講読:父子のイタリア旅行(1769年:モーツァルト13歳)
第7回	《姉ナンネルの言語使用、標準形と方言形の混交》 手紙講読:ミュンヘン旅行(1774年～1775年:モーツァルト18～19歳)
第8回	《父レオポルトの書簡に見られる官庁語の影響》 手紙講読:ミュンヘン・マンハイム旅行(1777年:モーツァルト21歳)
第9回	オーストリアのドイツ語の特徴
第10回	《青年時代のモーツァルト書簡における方言的要素》 手紙講読:ミュンヘン・マンハイム旅行(1777年:モーツァルト21歳)
第11回	《母アンナの言語使用、書法上(綴り方)の特徴》 手紙講読:ミュンヘン・マンハイム旅行(1778年:モーツァルト21歳)
第12回	《母アンナの書簡における方言使用》 手紙講読:パリ旅行(1778年:22歳)母アンナの旅報告
第13回	《モーツァルトの書簡に見られる言語使用の変化》 手紙講読:パリ旅行(1778年:22歳)母の死
第14回	第1学期のまとめ
第15回	到達度確認

授業計画コメント

受講生の希望に応じてテーマを変更する可能性もあります。

授業方法(対面授業の場合)

対面授業を基本としますが、受講生の状況によって授業形式を一部変更する可能性もあります。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用した同時配信型授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に必ず予習をし(約1時間)、授業ではグループワークに積極的に参加してください。毎回、授業前に予習したテキストをmanabaで提出していただきます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	授業後に提出するコメントペーパー
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	口頭発表(20%)、ディスカッションへの参加度(20%)
その他(備考欄を参照)	30 %	授業前に提出する予習テキスト

成績評価コメント

授業前に提出する予習テキスト(30%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)、口頭発表(20%)、授業後に提出するコメントペーパー(30%)による平常点で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに対するフィードバックは授業内、およびmanaba経由で行います。

教科書

Mozart. Briefe und Aufzeichnungen. ,Wilhelm A. Bauer /Otto Erich Deutsch,Bärenreiter,1962-1975,3761801440
9783761801444 3761801459 9783761801451

モーツァルト手紙全集 I～VI,海老沢敏・高橋英郎編訳,白水社,1976, 1980, 1987, 1990, 1995, 2001

教科書コメント

テキストはコピー(manaba経由でWordファイル)を配布します。

参考文献

講座ドイツ言語学第2巻 ドイツ語の歴史論,高田博行・新田春夫,ひつじ書房,2013,978-4-89476-572-6

参考文献コメント

授業で適宜、指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350300102	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(2)		
副題	モーツァルト一家の手紙文—ドイツ語史と音楽史の交点		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	佐藤 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 対面授業		

授業概要

オーストリアでは、神聖ローマ帝国官房の伝統を汲むウィーンの記事語(東上部ドイツ語)が長らく模範的なことばとして用いられてきましたが、18世紀に入ると次第に声望を失っていきました。ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)が生まれた18世紀中葉には、オーストリアにおける記事語が、ライプツィヒやドレスデンを中心とする東中部ドイツ語型の標準記事語に切り替わっていきます。この授業で扱うモーツァルト家の人々(両親、姉、息子たち)が書いた手紙文は、まさに18世紀中葉から19世紀前半にかけてオーストリアの記事語が標準していくプロセスを見せてくれます。この授業では、モーツァルト家の人々を書き残した手紙文を読み進めることによって、彼らの生活を言語と音楽活動の面から垣間見たいと思います。ことばに厳格な父親、オーストリア的なことばを多く織り交ぜる母親と姉、放埒さにもかかわらず案外ときちんとしたドイツ語を書くモーツァルトなど、表情豊かな様子が見えてくるでしょう。

第2学期はウィーンでの音楽活動(1781年)からモーツァルト最期の年(1791年)までの時期に書かれた手紙を扱います。受講生のみなさんには、予習をした内容を踏まえてグループで日本語訳を作り、発表してもらいます。各授業の最後には、学習した事柄についての意見や感想を書いたコメントペーパーをmanaba経由で提出していただきます。テキストの講読と並行して、受講生にはモーツァルトに関する個人発表(パワーポイント等によるプレゼンテーション)をしてもらいます。口頭発表のあとには、まずグループごとに発表内容についてディスカッションをし、その後の全体討論を経て理解を深めます。発表資料の作り方や発表の仕方等に関しては、具体的に指導します。

到達目標

- ・ 18世紀末のドイツ語、オーストリア語法を含むドイツ語テキストを読む力を養成する。
- ・ 言語のみならず、芸術・文化に関する分野についての背景知識を身につけることで、ドイツ語テキストを総合的に研究し、分析できるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	第2学期の授業についての説明
第2回	ドイツ記事語(標準語)の成立史
第3回	《モーツァルトの方言意識》 手紙講読:ウィーンでの音楽活動(1781年:モーツァルト25歳) 故郷との訣別
第4回	《18世紀の2人称代名詞》 手紙講読:ウィーンでの音楽活動(1781年:モーツァルト25歳) 大司教との確執
第5回	《語彙における意味変化》 手紙講読:ウィーンでの音楽活動(1781年:モーツァルト25歳) モーツァルトの恋
第6回	《コンスタンツェの言語使用》 手紙講読:ウィーンでの音楽活動(1781年:モーツァルト25歳)
第7回	《モーツァルト書簡に見られる官庁語の影響》 手紙講読:コンスタンツェとの結婚(1782年:モーツァルト26歳)
第8回	モーツァルト一家に見られる標準語と方言
第9回	《父レオポルトの方言使用》 手紙講読:晩年のレオポルト(1787年:モーツァルト31歳)
第10回	《父レオポルトの書簡に見られる話しことば的要素》 手紙講読:晩年のレオポルト(1787年:モーツァルト31歳) 孫の世話をするレオポルト
第11回	《モーツァルトの書簡に見られる方言的要素の減少(1)》 手紙講読:父レオポルトの死(1787年:モーツァルト31歳) 父レオポルトへの想い
第12回	《モーツァルトの書簡に見られる方言的要素の減少(2)》 手紙講読:モーツァルト最期の年(1791年:モーツァルト35歳) 妻コンスタンツェへの愛
第13回	《19世紀における標準化の完了》 手紙講読:モーツァルトの息子フランツ・クサーファーの書簡(1810年)
第14回	第2学期のまとめ
第15回	到達度確認

授業計画コメント

受講生の希望に応じてテーマを変更する可能性もあります。

授業方法(対面授業の場合)

対面授業を基本としますが、受講生の状況によって授業形式を一部変更する可能性もあります。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用した同時配信型授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に必ず予習をし(約1時間)、授業ではグループワークに積極的に参加してください。毎回、授業前に予習したテキストをmanabaで提出していただきます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	授業後に提出するコメントペーパー
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	口頭発表(20%)、ディスカッションへの参加度(20%)
その他(備考欄を参照)	30 %	授業前に提出する予習テキスト

成績評価コメント

授業前に提出する予習テキスト(30%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)、口頭発表(20%)、授業後に提出するコメントペーパー(30%)による平常点で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに対するフィードバックは授業内、およびmanaba経由で行います。

教科書

Mozart. Briefe und Aufzeichnungen. ,Wilhelm A. Bauer /Otto Erich Deutsch,Bärenreiter,1962-1975,3761801440
9783761801444 3761801459 9783761801451

モーツァルト手紙全集 I～VI,海老沢敏・高橋英郎編訳,白水社,1976, 1980, 1987, 1990, 1995, 2001

教科書コメント

テキストはコピー(manaba経由でWordファイル)を配布します。

参考文献

講座ドイツ言語学第2巻 ドイツ語の歴史論,高田博行・新田春夫,ひつじ書房,2013,978-4-89476-572-6

参考文献コメント

授業で適宜、指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350300103	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(3)		
副題	様々なドイツ語のテキストを読む(1)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	白井 智美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 遠隔授業		

授業概要

この授業ではドイツ語文法を一通り修めた受講生の皆さんに、ドイツ語で書かれた様々なテキストを読んでもらいます。テキストにはメール、新聞記事、小説など様々な種類がありますが、それぞれのテキストにはそれぞれの読み方があります。より正確には、テキストには、それを読む動機や目的に応じて様々な読み方があります。皆さんも日本語でシラバスを読むときと、小説を読むときでは異なる読み方をしているでしょう。それは皆さんが、異なる動機と目的でそれぞれのテキストを読むからです。シラバスからは特定の情報を得ることが、小説では文章自体を楽しむことが動機や目的になっているかもしれません。この授業の目標は、日本語でテキストを読むときに皆さんが無意識に行っているように、ドイツ語のテキストを読むときにも、「精読」という読み方だけでなく、その動機と目的に応じて様々な読み方ができるようになってもらうことにあります。様々な種類のテキストに触れることで、それぞれのテキストにおけるドイツ語特有の構成や表現を知り、ドイツ語で書かれたテキストから自分の目的に応じて「必要な情報を得る読み方」を獲得してください。

到達目標

精読以外のドイツ語テキストの読み方を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:授業の概要と進め方、作業シート・レポート作成、成績評価について
第2回	【1】ラベルを読む(ワイン・ビール)・ゴミの分別表を読む(1)
第3回	【1】ラベルを読む(ワイン・ビール)・ゴミの分別表を読む(1)
第4回	【2】時刻表を読む・メール／手紙を読む(1)
第5回	【2】時刻表を読む・メール／手紙を読む(1)
第6回	【3】レシピを読む・食品成分表を読む(1)
第7回	【3】レシピを読む・食品成分表を読む(1)
第8回	【4】新聞を読む(1)
第9回	【4】新聞を読む(1)
第10回	【5】論文を読む(1)
第11回	【5】論文を読む(1)
第12回	【6】小説を読む(1)
第13回	【6】小説を読む(1)
第14回	授業の総括
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

資料の配布にはWebClassを使用します。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用した同時配信型授業を行います。資料の配布にはWebClassを使用します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

使用テキストは予めWebClassにアップロードします。授業日までに目を通して授業に臨んでください。(進度不問。各自1時間程度でできる範囲予習すること。)

授業ではテキストに対する課題を出します。各自課題に取り組んだ後、グループワークを行います。予習及び授業内容を反映した作業シート(フォーマットはWebClassにアップロード)を授業終了後、当日中にWebClassにアップロードしてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	10 %	到達度確認
レポート	40 %	到達度確認
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	予習、授業参加
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、予習状況、授業参加状況を考慮する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎週の予習と中間試験、期末レポートを課します。それぞれ授業中にフィードバックを行います。

教科書コメント

資料はLMS(WebClass)で配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に出席してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350300104	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(4)		
副題	様々なドイツ語のテキストを読む(2)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	白井 智美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 遠隔授業		

授業概要

1学期に続き、ドイツ語で書かれた様々な種類のテキストを読みます。1学期同様、この授業の目標は、ドイツ語のテキストに関しても「精読」という読み方だけでなく、日本語のテキストに関してそうするように、そのテキストを読む動機や目的に応じて、様々な読み方ができるようになることにあります。ドイツ語で書かれた様々な種類のテキストに触れることで、それぞれのテキストにおけるドイツ語特有の構成や表現を知り、ドイツ語で書かれたテキストから自分の目的に応じて「必要な情報を得る読み方」を獲得してください。1学期の言語・情報コース 専門演習(3)を履修していなくても問題がないように配慮します。

到達目標

精読以外のドイツ語テキストの読み方を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:授業の概要と進め方、作業シート・レポート作成、成績評価について
第2回	【1】ラベルを読む(ワイン・ビール)・ゴミの分別表を読む(2)
第3回	【1】ラベルを読む(ワイン・ビール)・ゴミの分別表を読む(2)
第4回	【2】時刻表を読む・メール／手紙を読む(2)
第5回	【2】時刻表を読む・メール／手紙を読む(2)
第6回	【3】レシピを読む・食品成分表を読む(2)
第7回	【3】レシピを読む・食品成分表を読む(2)
第8回	【4】新聞を読む(2)
第9回	【4】新聞を読む(2)
第10回	【5】論文を読む(2)
第11回	【5】論文を読む(2)
第12回	【6】小説を読む(2)
第13回	【6】小説を読む(2)
第14回	授業の総括
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の終息が宣言された場合、対面で授業を行う可能性があります。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用した同時配信型授業を行います。資料の配布にはWebClassを使用します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

使用テキストは予めWebClassにアップロードします。授業日までに目を通して授業に臨んでください。(進度不問。各自1時間程度でできる範囲予習すること。)

授業ではテキストに対する課題を出します。各自課題に取り組んだ後、グループワークを行います。予習及び授業内容を反映した作業シート(フォーマットはWebClassにアップロード)を授業終了後、当日中にWebClassにアップロードしてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	10 %	到達度確認
レポート	40 %	到達度確認
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	予習、授業参加
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、予習状況、授業参加状況を考慮する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎週の予習と中間試験、期末レポートを課します。それぞれ授業中にフィードバックを行います。

教科書コメント

資料はLMS(WebClass)で配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に参加して下さい。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3503001Z1	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl I
第3回	Zeitgefühl II
第4回	Engagement in Vereinen
第5回	Handynutzung I
第6回	Handynutzung II
第7回	Probleme in Wohngemeinschaften
第8回	Porträt: Dinge des Alltags
第9回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第10回	Schlagfertigkeit
第11回	Sprachen lernen
第12回	Dialekte I
第13回	Dialekte II
第14回	Porträt: LaBrassBanda
第15回	Zusammenfassung

授業方法(対面授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

授業方法(遠隔授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Die Teilnehmer sollen in der Regel eigenständig Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später gemeinsam in der Zoom Sitzung oder in Gruppen in Breakout Räumen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3503001Z2	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Stellenanzeigen
第2回	Ein "bunter" Lebenslauf
第3回	Studium oder Ausbildung I
第4回	Studium oder Ausbildung II
第5回	Multitasking
第6回	Soft Skills
第7回	Junge Unternehmen
第8回	Der Kohlenpott: Die Entwicklung des Ruhrgebiets
第9回	Gewissensfragen
第10回	Globalisierung I
第11回	Globalisierung II
第12回	Crowdfunding I
第13回	Crowdfunding II
第14回	Porträt: Petra Jenner
第15回	Zusammenfassung

授業方法(対面授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

授業方法(遠隔授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Die Teilnehmer sollen in der Regel eigenständig Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später gemeinsam in der Zoom Sitzung oder in Gruppen in Breakout Räumen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		

中間テスト

レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3503001Z3	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・中高ドイツ語の文法を学習し、辞書を頼りに原典購読に挑戦する。ハルトマン・フォン・アウエの宮廷叙事詩『あわれなハインリヒ』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法(対面授業の場合)

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語文法の学習および原典購読などを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを用いたリアルタイム遠隔授業を行います。動画は使用せず、画面の共有と音声のやり取りで進めますので、必要なデータ通信量はそれほど多くはありませんが(1回につき100～150MB程度)、受講を希望する人は必要な環境を整えておいてください。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		

レポート

小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3503001Z4	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・辞書と文法書を頼りに、中高ドイツ語の原典購読に挑戦する。ハルトマン・フォン・アウエの宮廷叙事詩『あわれなハインリヒ』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	現代の中世観
第4回	続き
第5回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第6回	続き
第7回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第8回	続き
第9回	中世ドイツ文学の詩人たち
第10回	続き
第11回	続き
第12回	続き
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法(対面授業の場合)

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語原典購読、小発表およびディスカッションなどを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを用いたリアルタイム遠隔授業を行います。動画は使用せず、画面の共有と音声のやり取りで進めますので、必要なデータ通信量はそれほど多くはありませんが(1回につき100-150MB程度)、受講を希望する人は必要な環境を整えておいてください。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350301101	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(1)		
副題	「学校小説」と「学校作文」		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	若林 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

20世紀初頭のドイツ語圏では、ヘルマン・ヘッセやローベルト・ムージルなどによって「学校小説」(Schulroman)が多く書かれ、当時の学校・教育システムの中で抑圧される少年たちの苦悩が描かれました。他方、ドイツ語圏スイスの作家ローベルト・ヴァルザー(1878-1956)の「学校小説」は教養小説のパロディーとして、上昇ではなく下降を目指す「召使学校」を舞台としています。この授業では、当時のドイツ語圏における社会状況と教育について概観し、なぜこの時期に多くの「学校小説」が書かれたのか考えるとともに、ヘッセとヴァルザーの学校生徒を主人公とした2つの小説を比較します。さらに後半では、ヴァルザーの「学校作文」の形式を用いた散文テキストを読解・分析し、時代的背景を踏まえつつ、ヴァルザーの文学形式の特徴についても考察します。

到達目標

- * 文学作品や芸術が時代背景と密接に関わっていることを理解する。
- * 文学テキストを論理的に分析するスキルを修得する。
- * 論理的分析力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	20世紀初頭ドイツと「学校小説」
第3回	ヘルマン・ヘッセ:生涯と作品
第4回	ヘッセ『車輪の下』:作品講読・分析(1)
第5回	ヘッセ『車輪の下』:作品講読・分析(2)
第6回	ローベルト・ヴァルザー:生涯と作品
第7回	ヴァルザー:ベルリン時代の小説
第8回	ヴァルザー『ヤーコプ・フォン・グンテン』:作品講読・分析(1)
第9回	ヴァルザー『ヤーコプ・フォン・グンテン』:作品講読・分析(2)
第10回	ヴァルザーの「学校作文」
第11回	ヴァルザー Fritz Kochers Aufsätze:作品講読・分析(1)
第12回	ヴァルザー Fritz Kochers Aufsätze:作品講読・分析(2)
第13回	ヴァルザー Fritz Kochers Aufsätze:作品講読・分析(3)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

授業:Zoom

資料配信と課題提出:WebClass

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- * 授業前:指定された文献資料を読む/ドイツ語テキストの予習(1~2時間)
- * 授業後:授業コメント作成(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

その他(備考欄を参照)

50 %

授業コメント

成績評価コメント

- (1) レポート *与えられたテーマに即して論理的に記述されているか
*レポート作成上のルールにしたがっているか
(2) 授業コメント *授業内容を理解して書いているか

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中にコメントします。

教科書

長編小説と散文集:ローベルト・ヴァルザー作品集3,ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳),鳥影社,2013,978-4-86265-406-9
車輪の下で,ヘルマン・ヘッセ(松永美穂訳),光文社,2007,978-4-334-75145-6

参考文献

タンナー兄弟姉妹:ローベルト・ヴァルザー作品集1,ローベルト・ヴァルザー(新本史斉訳),鳥影社,2010,978-4-86265-251-5
助手:ローベルト・ヴァルザー作品集2,ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳),鳥影社,2011,978-4-86265-305-5
散文小品集 I:ローベルト・ヴァルザー作品集4,ローベルト・ヴァルザー(新本史斉訳),鳥影社,2012,978-4-86265-375-8
盗賊・散文小品集II:ローベルト・ヴァルザー作品集5,ローベルト・ヴァルザー(新本史斉・若林恵訳),鳥影社,2015,978-4-86265-530-1
ドイツ文学の道しるべ,畠山寛・吉中俊貴・岡本和子,ミネルヴァ書房,2021,978-4-623-09078-5

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350301102	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(2)		
副題	音楽と絵画を語るテキスト		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	若林 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

ドイツ語圏スイスの作家ローベルト・ヴァルザー(1878-1956)は、芸術や芸術家に関する散文や詩も数多く書いています。音楽関連ではモーツァルトやショパンの他、ピアノやリュートといった楽器や歌について、絵画関連ではブリューゲル、レンブラント、ドラクロワ等の他、セザンヌ、ルノワール、ゴッホなど当時の最先端の画家たち、そしてまた20世紀初頭ベルリンの舞台美術家でありベルリン分離派メンバーでもあった兄カール・ヴァルザーの絵画に関するテキストもあります。この授業では、こうした音楽・絵画関連テキストの中からいくつかを選び、読解・分析を試みますが、ヴァルザーの場合、通常期待されるような芸術論や音楽評・美術評が展開されることはなく、ある意味で読者の期待を裏切るような、ときに奇抜な印象を与えることがあります。しかしながら、その「裏切り」の要因を詳しく観察・分析してみるならば、ヴァルザーの興味深くも鋭いイロニーが浮き彫りにされるでしょう。

到達目標

- * 文学作品や芸術が時代背景と密接に関わっていることを理解する。
- * 文学テキストを論理的に分析するスキルを修得する。
- * 論理的分析力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	音楽を語る方法(1):音に魅了される耳①
第3回	音楽を語る方法(2):音に魅了される耳②
第4回	音楽を語る方法(3):物語のポリフォニー①
第5回	音楽を語る方法(4):物語のポリフォニー②
第6回	音楽を語る方法(5):モデルネの「魔笛」①
第7回	音楽を語る方法(6):モデルネの「魔笛」②
第8回	絵画を語る方法(1)Ticiano
第9回	絵画を語る方法(2)Van Gogh
第10回	絵画を語る方法(3)Delacroix
第11回	絵画を語る方法(4)Karl Walser
第12回	絵画を語る方法(5)Cranach
第13回	絵画を語る方法(6)Van der Weyden
第14回	まとめ
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

授業:Zoom

資料配信と課題提出:WebClass

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- * 授業前:指定された文献資料を読む/ドイツ語テキストの予習(1~2時間)
- * 授業後:授業コメント作成(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	

レポート	%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	50 %	授業コメント

成績評価コメント

- (1) レポート * 与えられたテーマに即して論理的に記述されているか
 * レポート作成上のルールにしたがっているか
- (2) 授業コメント * 授業内容を理解して書いているか

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中にコメントします。

教科書

Vor Bildern: Geschichten und Gedichte, Robert Walser, Insel Verlag, 2006

参考文献

日々はひとつの響き: ヴァルザー・クレイ詩画集, ローベルト・ヴァルザー+パウル・クレイ (柿沼万里江編・若林恵訳), 平凡社, 2018, 9784582652093

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350301103	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(3)		
副題	ユダヤ系ドイツ人亡命者の自伝を読む(1)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	吉田 治代		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 5時限 対面授業		

授業概要

ナチスによりドイツを追われたユダヤ系ドイツ人哲学者カール・レーヴィットの自伝『ナチズムと私の生活』(Mein Leben in Deutschland vor und nach 1933, 1940年)を精読します。1学期は、第一次世界大戦が勃発した1914年からナチス政権が誕生した1933年までのドイツの変化を克明に記した前半部分を読み、戦争とナショナリズム、市民社会の崩壊、ドイツ人とユダヤ人など、本書のテーマについて議論します。

到達目標

亡命者として戦時の日本にも滞在経験のある稀有な哲学者レーヴィットについて基本的な知識を習得するとともに、ドイツにおけるユダヤ人の同化と排除という問題への理解を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	教員による導入
第3回	『ナチズムと私の生活』読解1
第4回	『ナチズムと私の生活』読解2
第5回	『ナチズムと私の生活』読解3
第6回	『ナチズムと私の生活』読解4
第7回	『ナチズムと私の生活』読解5
第8回	『ナチズムと私の生活』読解6
第9回	『ナチズムと私の生活』読解7
第10回	『ナチズムと私の生活』読解8
第11回	『ナチズムと私の生活』読解9
第12回	『ナチズムと私の生活』読解10
第13回	『ナチズムと私の生活』読解11
第14回	まとめ
第15回	ふりかえり

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で進めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)で、LMS(manaba)で教材や資料を配信・配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、発表担当者を決めて、発表を中心に授業を進めます。発表者は事前に担当箇所のレジュメ(和訳、文法解説および内容についての補足説明を記載)を準備します。発表者以外の受講生もテキストを予習すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350301104	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(4)		
副題	ユダヤ系ドイツ人亡命者の自伝を読む(2)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	吉田 治代		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 5時限 対面授業		

授業概要

ナチスよりドイツを追われたユダヤ系ドイツ人哲学者カール・レーヴィットの自伝『ナチズムと私の生活』(Mein Leben in Deutschland vor und nach 1933, 1940年)を1学期に引き続き精読します。2学期は、日本での亡命生活を綴った後半を読み、日本におけるナチズム、全体主義体制下における人々の生活や個々の実践(体制への順応と抵抗)について議論します。

到達目標

レーヴィットという亡命者の経験を手がかりに、故国を追われた者と故国との関係や異文化との出会いについて考察しながら、国民国家という枠を超えた複眼的な思考を身につけます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	教員による導入
第3回	『ナチズムと私の生活』読解1
第4回	『ナチズムと私の生活』読解2
第5回	『ナチズムと私の生活』読解3
第6回	『ナチズムと私の生活』読解4
第7回	『ナチズムと私の生活』読解5
第8回	『ナチズムと私の生活』読解6
第9回	『ナチズムと私の生活』読解7
第10回	『ナチズムと私の生活』読解8
第11回	『ナチズムと私の生活』読解9
第12回	『ナチズムと私の生活』読解10
第13回	『ナチズムと私の生活』読解11
第14回	まとめ
第15回	ふりかえり

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で進めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)で、LMS(manaba)で教材や資料を配信・配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、発表担当者を決めて、発表を中心に授業を進めます。発表者は事前に担当箇所のレジュメ(和訳、文法解説および内容についての補足説明を記載)を準備します。発表者以外の受講生もテキストを予習すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

1学期から継続して履修することが望ましい。また第1回目の授業に必ず出席してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350301105	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(5)		
副題	東ドイツ的視点から眺める統一ドイツの諸相		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 対面授業		

授業概要

東西ドイツが統一してから30年以上が経ちます。国としての東ドイツ(ドイツ民主共和国)はなくなりましたが、当時の東ドイツを生き残った人々は、その記憶とともに、いまや統一したドイツに生きています。

例えばオスタルギーや「心の壁」をテーマとする作品として、映画『グッバイ、レーニン！』(2003)や『善き人のためのソナタ』(2006)が有名ですが、実はどちらも西ドイツ出身の監督によるものです。東ドイツ出身の人々はドイツ統一を、そして統一後のドイツをどのように経験し、それを芸術表現へと昇華させているのでしょうか。「東ドイツ出身」という一点にこだわって、文学、映画、ロック音楽の分野からいくつかピックアップして、統一ドイツの諸相を東ドイツ的視点から眺めてみたいと思います。

到達目標

- ・作品を通して東ドイツについての理解を深める。
- ・同時に、東西統一について、および統一後のドイツに関する理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	トーマス・ブルスヒ(1999)『太陽通り』:小説読解とディスカッション(1回目)
第3回	//:続き(2回目)
第4回	//:続き(3回目)
第5回	//:続き(4回目)
第6回	レアンダー・ハウスマン監督映画(2000)『太陽通り』:映画鑑賞
第7回	//:ディスカッション
第8回	ラムシュタイン(メタル・バンド):アルバム(1995)『心からの苦悩』(1997)『渴望』
第9回	//:アルバム(2004)『旅、旅』(2005)『薔薇のような赤』
第10回	//:アルバム(2009)『すべての者に愛はある』
第11回	//:アルバム(2019)『無題』
第12回	Exkurs①:西ドイツ出身監督の描くドイツ統一～F. H. v. ドナースマルク監督映画(2006)『善き人のためのソナタ』
第13回	Exkurs②:西ドイツ出身監督の描くドイツ統一～Ch. ペツォールト監督映画(2012)『東ベルリンから来た女』
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

感染対策を行いつつ、演習形式で授業を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔に切り替える必要が出てきた場合は、Zoomによる同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で扱う作品を事前に読み、課題に沿って内容をまとめる(60～90分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業時は積極的な発言を評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは返却時にコメントします。

教科書

太陽通り,トーマス・ブルスイヒ,三修社,2002

教科書コメント

教科書は各自、購入してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350301106	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(6)		
副題	東ドイツ的視点から眺める統一ドイツの諸相		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 対面授業		

授業概要

東西ドイツが統一してから30年以上が経ちます。国としての東ドイツ(ドイツ民主共和国)はなくなりましたが、当時の東ドイツを生きた人々は、その記憶とともに、いまや統一したドイツに生き続けています。

例えばオスタルギーや「心の壁」をテーマとする作品として、映画『グッバイ、レーニン！』(2003)や『善き人のためのソナタ』(2006)が有名ですが、実はどちらも西ドイツ出身の監督によるものです。東ドイツ出身の人々はドイツ統一を、そして統一後のドイツをどのように経験し、それを芸術表現へと昇華させているのでしょうか。「東ドイツ出身」という一点にこだわって、文学、映画、ロック音楽の分野からいくつかピックアップして、統一ドイツの諸相を東ドイツ的視点から眺めてみたいと思います。

到達目標

- ・作品を通して東ドイツについての理解を深める。
- ・同時に、東西統一について、および統一後のドイツに関する理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	ジェニー・エルペンベック(2015)『行く、行った、行ってしまった』:小説読解とディスカッション(1回目)
第3回	// :続き(2回目)
第4回	// :続き(3回目)
第5回	// :続き(4回目)
第6回	// :続き(5回目)
第7回	// :続き(6回目)
第8回	アンドレ・マイヤー監督映画(2006)『東側は愛し方が違った?—分断ドイツの性事情』:映画鑑賞
第9回	// :ディスカッション
第10回	トーマス・シュトゥーバー監督映画(2018)『希望の灯り』:映画鑑賞
第11回	// :ディスカッション
第12回	トーマス・ハイゼ監督映画(2019)『ハイゼ家 百年』:映画鑑賞
第13回	// :ディスカッション
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

感染対策を行いつつ、演習形式で授業を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔に切り替える必要が出てきた場合は、Zoomによる同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で扱う作品を事前に読み、課題に沿って内容をまとめる(60～90分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業時は積極的な発言を評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは返却時にコメントします。

教科書

行く、行った、行ってしまった,ジェニー・エルペンベック,白水社,2021

教科書コメント

教科書は各自、購入してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3503011Z1	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	文化学から考察する文学作品		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

文学作品をそれぞれの時代の文化の複合的な要素のなかで考察する文化学という観点について学び、この観点から具体的に作品を読み解いていく試みを行います。どの作品を取り上げるかは、参加者の関心を考慮した上で決定します。

到達目標

文化学の視点とその方法の特徴を知るとともに、その方法を具体的に作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文化学の方法
第3回	文化学の特徴
第4回	文化を複合的に見るということ
第5回	作品分析(1)
第6回	作品分析(2)
第7回	作品分析(3)
第8回	作品分析(4)
第9回	作品分析(5)
第10回	作品分析(6)
第11回	作品分析(7)
第12回	作品分析(8)
第13回	作品分析(9)
第14回	作品分析(10)
第15回	まとめ

授業計画コメント

毎回の授業で扱うテキストの範囲について、まずは要約をしていただきます。その後で理解度に応じて、精読を行います。

授業方法(対面授業の場合)

演習方式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型で行います。内容は対面授業と同様です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度、特に積極性を重視します。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキスト範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示します。

その他

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、課題を提出してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3503011Z2	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	文化学から考察する文学作品(2)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

第1学期に学んだ文化学的分析方法を、具体的な作品に応用して作品分析を行います。また各自でテーマを決めて、発表をしていただきます。

到達目標

文化学的方法論について学び、それを実際の作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文化学的方法論の復習(1)
第3回	文化学的方法論の復習(2)
第4回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-1)
第5回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-2)
第6回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-3)
第7回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-4)
第8回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-5)
第9回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-6)
第10回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-7)
第11回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-8)
第12回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-9)
第13回	受講者による発表(1)
第14回	受講者による発表(2)
第15回	まとめ

授業計画コメント

テキスト読解に関しては、要約を含めて準備しておいてください。

授業方法(対面授業の場合)

まずは該当部分についての要約を行っていただきます。理解度に応じて精読を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型オンラインの授業とします。内容的には対面授業と同様です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め指示した範囲のテキストの予習(要約も含む)。2時間程度の予習が必要です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

指定された箇所についての発表は、授業中にコメントをします。

教科書コメント

使用テキストについては授業中に指示します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3503011Z3	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	I. Bachmann: Lyrik und Prosa		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Die österreichische Schriftstellerin und Lyrikerin Ingeborg Bachmann (1926–1973) gehört zu den wichtigsten Autorinnen des 20. Jahrhunderts. Ihr nach dem Zweiten Weltkrieg entstandenes Werk kann mit seinem gesellschaftskritischen Blick als beispielhaft für die deutschsprachige Nachkriegsliteratur angesehen werden. Als Lyrikerin versuchte Bachmann zunächst die Grenzen der Sprachen zu überschreiten; später verzichtete sie aber darauf, Gedicht zu schreiben und wandte sich der Prosa zu, um Geschichten zu entwerfen, die sich insbesondere mit gesellschaftlichen Herrschaftsformen (wie dem Patriarchat) auseinandersetzen. Im Seminar soll dieses vielfältige Werk unter verschiedenen Fragestellungen (wie sprachlich-literarischen, philosophischen, politischen) erarbeitet werden.

到達目標

Die Studierenden lernen an exemplarischen Beispielen der Lyrik und Prosa Bachmanns grundlegende Texte der deutschsprachigen Literatur kennen und erwerben, neben literatur- und kulturgeschichtlichem Wissen, Zugänge zu verschiedenen Interpretationsmöglichkeiten dieser Texte und zum Verständnis unterschiedlicher Literaturformen.

授業内容

実施回 内容

- | 実施回 | 内容 |
|------|--|
| 第1回 | Einführung; Überblick; Biografie Bachmanns |
| 第2回 | Biografie Bachmanns; zeitgeschichtlicher Kontext |
| 第3回 | Lyrik Bachmanns: "Ausfahrt" |
| 第4回 | "Ausfahrt" Fortsetzung |
| 第5回 | Lyrik Bachmanns: "Die gestundete Zeit" |
| 第6回 | "Die gestundete Zeit" Fortsetzung |
| 第7回 | Lyrik Bachmanns "Früher Mittag" |
| 第8回 | "Früher Mittag" Fortsetzung |
| 第9回 | Lyrik Bachmanns: "Erklär mir, Liebe" |
| 第10回 | "Erklär mir, Liebe" Fortsetzung |
| 第11回 | Lyrik Bachmanns: "Reklame" |
| 第12回 | "Reklame" Fortsetzung |
| 第13回 | Lyrik Bachmanns "Schwarzer Walzer" |
| 第14回 | "Schwarzer Walzer" Fortsetzung |
| 第15回 | Abschlussprüfung (Test) |

授業方法(対面授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

授業方法(遠隔授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit in break-out-rooms, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60. Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3503011Z4	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	I. Bachmann: Lyrik und Prosa II		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Die österreichische Schriftstellerin und Lyrikerin Ingeborg Bachmann (1926–1973) gehört zu den wichtigsten Autorinnen des 20. Jahrhunderts. Ihr nach dem Zweiten Weltkrieg entstandenes Werk kann mit seinem gesellschaftskritischen Blick als beispielhaft für die deutschsprachige Nachkriegsliteratur angesehen werden. Als Lyrikerin versuchte Bachmann zunächst die Grenzen der Sprachen zu überschreiten; später verzichtete sie aber darauf, Gedicht zu schreiben und wandte sich der Prosa zu, um Geschichten zu entwerfen, die sich insbesondere mit gesellschaftlichen Herrschaftsformen (wie dem Patriarchat) auseinandersetzen. Im Seminar soll dieses vielfältige Werk unter verschiedenen Fragestellungen (wie sprachlich-literarischen, philosophischen, politischen) erarbeitet werden.

到達目標

Die Studierenden lernen an exemplarischen Beispielen der Lyrik und Prosa Bachmanns grundlegende Texte der deutschsprachigen Literatur kennen und erwerben, neben literatur- und kulturgeschichtlichem Wissen, Zugänge zu verschiedenen Interpretationsmöglichkeiten dieser Texte und zum Verständnis unterschiedlicher Literaturformen.

授業内容

実施回 内容

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Wiederholung der Ergebnisse des letzten Semesters |
| 第2回 | Lyrik Bachmanns: "Liebe: Dunkler Erdteil" |
| 第3回 | "Liebe: Dunkler Erdteil" Fortsetzung |
| 第4回 | Lyrik Bachmanns: "Böhmen liegt am Meer" |
| 第5回 | "Böhmen liegt am Meer" Fortsetzung |
| 第6回 | Hörspiel Bachmanns: "Der gute Gott von Manhattan" |
| 第7回 | "Der gute Gott von Manhattan" Fortsetzung I |
| 第8回 | "Der gute Gott von Manhattan" Fortsetzung II |
| 第9回 | Prosa Bachmanns: "Das dreißigste Jahr" |
| 第10回 | "Das dreißigste Jahr" Fortsetzung I |
| 第11回 | "Das dreißigste Jahr" Fortsetzung II |
| 第12回 | Prosa Bachmanns: "Drei Wege zum See" |
| 第13回 | "Drei Wege zum See" Fortsetzung |
| 第14回 | Abschlussdiskussion |
| 第15回 | Abschlussprüfung |

授業方法(対面授業の場合)

Gruppendiskussion, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

授業方法(遠隔授業の場合)

Gruppendiskussion, Gruppenarbeit in break-out-rooms, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitung und Erledigung von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60 Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350302101	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(1)		
副題	日独比較環境政策1(地域環境問題)		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	岡村 りら		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

「環境」というと、自然や動物、気候や生態系など、私たちの生活とは直接関係しない分野、自然科学系の分野と思いませんか？「環境」は私たちの生活と密接にかかわりあっています。そして経済、産業、外交など様々な分野へとつながっていきます。前期は身近な問題である地域環境問題に焦点をあて授業を進めます。学期前半はレクチャーとテキスト講読を中心にを行い、学期の後半は、その知識を前提に、受講生はプレゼンテーション(日本語/ドイツ語どちらでも可)を行います。

到達目標

「環境」は、私たちの生活に密着したテーマです。「環境」を通じて日独比較考察をすることは、両国の社会・文化比較につながります。ドイツと日本の類似点・相違点を明らかにし、ドイツへの理解を深めると同時に、ドイツを知ることで日本についての理解も深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	レクチャーおよびディスカッション 環境政策の概略 (歴史、緑の党など)
第3回	レクチャーおよびディスカッション 廃棄物問題概要 (DSD、デポジットなど)
第4回	レクチャーおよびディスカッション 廃棄物問題 (プラスチックごみ、食品ロスなど)
第5回	レクチャーおよびディスカッション 生物多様性/動物の福祉
第6回	レクチャーおよびディスカッション 知る権利/ エコマーク(有機マークを中心に)
第7回	個人発表
第8回	個人発表
第9回	個人発表
第10回	個人発表
第11回	個人発表
第12回	個人発表
第13回	個人発表
第14回	個人発表
第15回	理解度の確認および総括

授業計画コメント

専門演習(1)、(2)を合わせて受講することが好ましい

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

主としてZoomを用いた同時配信型で行いますが、週によってオンデマンド型の場合もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定されたテキスト等を予習し、授業で扱った内容に関して各自フォローアップを行ってください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	個人発表

成績評価コメント

学期中にレポートの理解度を確認する小テストを行います。
個人発表、小テスト、平常点で総合的に判断します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業前後の面談およびメールで対応します。

教科書コメント

適宜、授業内で指示します。

参考文献コメント

適宜、授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限の可能性がります。履修者数により授業形態の変更も考えられますので、
第一回目の授業に必ず出席してください。

その他

前期、後期を合わせて受講することを推奨します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350302102	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(2)		
副題	日独比較環境政策2(地球環境問題)		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	岡村 りら		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

「環境」というと、自然や動物、気候や生態系など、私たちの生活とは直接関係しない分野、自然科学系の分野と思いませんか？「環境」は私たちの生活と密接にかかわりあっています。そして経済、産業、外交など様々な分野へとつながっていきます。前期で学んだ知識をもとに、後期では地球環境問題についての知識を深めます。学期前半はレクチャーとテキスト講読を中心に行い、学期の後半は、その知識を前提に、受講生はプレゼンテーション(日本語/ドイツ語どちらでも可)を行います。

到達目標

「環境」は、私たちの生活に密着したテーマです。「環境」を通じて日独比較考察をすることは、両国の社会・文化比較につながります。ドイツと日本の類似点・相違点を明らかにし、ドイツへの理解を深めると同時に、ドイツを知ることで日本についての理解も深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	レクチャーおよびディスカッション 越境環境問題(酸性雨、森林破壊等)
第3回	レクチャーおよびディスカッション 気候変動政策
第4回	レクチャーおよびディスカッション エネルギー政策
第5回	レクチャーおよびディスカッション 交通政策/街づくり
第6回	レクチャーおよびディスカッション 環境と観光
第7回	個人発表
第8回	個人発表
第9回	個人発表
第10回	個人発表
第11回	個人発表
第12回	個人発表
第13回	個人発表
第14回	個人発表
第15回	理解度の確認および総括

授業計画コメント

専門演習(1)、(2)を合わせて受講することが好ましい

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

主としてZoomを用いた同時配信型で行いますが、週によってオンデマンド型の場合もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定されたテキスト等を予習し、授業で扱った内容に関して各自フォローアップを行ってください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	個人発表

成績評価コメント

学期中にレポートの理解度を確認する小テストを行います。
個人発表、小テスト、平常点で総合的に判断します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業前後の面談およびメールで対応します。

教科書コメント

適宜、授業内で指示します。

参考文献コメント

適宜、授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限の可能性がります。履修者数により授業形態の変更も考えられますので、
第一回目の授業に必ず出席してください。

その他

前期、後期を合わせて受講することを推奨します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350302103	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(3)		
副題	ドイツにおけるSDGs:現状と課題		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

2015に国連は「持続可能な開発目標 (SDGs=Sustainable Development Goals/ Ziele für nachhaltige Entwicklung)として17のゴールと169のターゲットを設定し、すべての国と地域が2030年までにこれらの目標達成のために政策を実施するように求めました。ドイツ連邦共和国は、すでに2000年代から持続可能な開発の政策を始めていて、2019年には世界のSDGs達成度ランキングでは6位でした。同じ年の日本の達成度が15位でしたので、それに比べればドイツはかなりよい成績をおさめていると言えますが、まだ課題は山積しています。

この授業では、まずSDGs設定の経緯と各目標の内容を把握し、ドイツにおけるSDGs達成度の現状と課題を、日本と比較しながら考えていきます。

すべての目標を扱うことは時間的にできませんが、1学期の授業では基本的人権や生活水準などSDGsの基本的な目標(貧困をなくそう、飢餓をゼロに、すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、ジェンダー平等を実現しよう、安全な水とトイレを世界中に)を検討します。

到達目標

SDGsの設定の経緯、具体的な内容を理解し、現段階におけるドイツと日本の取り組みを調べて比較考察し、今後の課題を自分なりに考えることができるようになることを目標とします。また必要な文献をドイツ語で読めるようになることも目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	SDGs設定までの経緯
第3回	SDGs設定以前におけるドイツの「持続可能な発展」政策
第4回	環境保護と経済発展をめぐる1980年代以降の議論
第5回	具体的な目標と現状分析(飢餓をゼロに)(ドイツ国内)
第6回	具体的な目標と現状分析(飢餓をゼロに)(国際的レベルでの政策への貢献)
第7回	具体的な目標と現状分析(飢餓をゼロに)(日本との比較)
第8回	具体的な目標と現状分析(すべての人に健康と福祉を)(ドイツ国内)
第9回	具体的な目標と現状分析(すべての人に健康と福祉を)(国際的レベルでの政策)
第10回	具体的な目標と現状分析(すべての人に健康と福祉を)(日本との比較)
第11回	具体的な目標と現状分析(質の高い教育をみんなに)(ドイツ国内)
第12回	具体的な目標と現状分析(質の高い教育をみんなに)(国際的レベルでの政策への貢献)
第13回	具体的な目標と現状分析(質の高い教育をみんなに)(日本との比較)
第14回	それぞれの目標についての今後の課題
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

毎回の授業の最初にドイツ語のテキストを読みます。
論文やレポートを作成の際に知っておくべき研究倫理を学ぶことも目標とします。

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は実施しません。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用した同時配信型のオンライン授業。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	

レポート	%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	各自選んだテーマについての発表

成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークで積極的に発言していること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析することができること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の課題については、授業中のグループワークで確認します。学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書コメント

テキストは著作権に留意して配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

その他

授業に関する質問や欠席連絡にはwebclassのメールを使用してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350302104	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(4)		
副題	ドイツにおけるSDGs:現状と課題(2)		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

1学期でSDGsの基本的構想のうち、基本となる6項目について考察しましたが、2学期では2段目(経済的・社会的な豊かさに関する項目)および3段目(地球環境、平和とパートナーシップに関する項目)について、1学期同様にドイツと日本とを比較しながら調査し、考察します。

到達目標

SDGsの後半の目標のそれぞれについて、現段階におけるドイツと日本の取り組みを調べて比較考察し、今後の課題を自分なりに考えることができるようになることを目標とします。また必要な文献をドイツ語で読めるようになることも目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	「働きがいも経済成長も」(ドイツ国内)
第3回	「働きがいも経済成長も」(国際レベルの政策への貢献)
第4回	「働きがいも経済成長も」(日本との比較)
第5回	「住み続けられるまちづくりを」(ドイツ国内)
第6回	「住み続けられるまちづくりを」(日本との比較)
第7回	「つくる責任、つかう責任」(ドイツ国内)
第8回	「つくる責任、つかう責任」(国際レベルの政策への貢献)
第9回	「つくる責任、つかう責任」(日本との比較)
第10回	「気候変動に具体的な対策を」(ドイツ国内)
第11回	「気候変動に具体的な対策を」(国際レベルの政策への貢献)
第12回	「気候変動に具体的な対策を」(日本との比較)
第13回	「平和と公正をすべての人に」(ドイツ国内)
第14回	「平和と公正をすべての人に」(国際レベルの政策への貢献)
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

論文やレポートを作成の際に知っておくべき研究倫理を学ぶことも目標とします。

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は実施しません。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使用した同時配信型のオンライン授業とします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	

成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークで積極的に発言していること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析することができること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の課題については、授業中のグループワークで確認します。学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書コメント

テキストは著作権に留意して配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

その他

授業についての質問や欠席連絡には、webclassのメールを使用してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350302105	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(5)		
副題	芸術のパトロンたちから見る日独の「文化」と「社会」		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	秋野 有紀		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 1時限 遠隔授業		

授業概要

この授業では、ドイツ語と日本語の資料を用い、ドイツ語圏(独・墺)と日本の芸術文化振興について読み解いていきます。第1学期は、1900年代までの芸術振興、第2学期は現代の文化政策を扱う予定です。具体的には、芸術や文化を支えてきた人々(王・市民・パトロン)や制度(政府)について学んでゆきます。

皆さんがドイツ語圏に行くとき、あるいは、ドイツ語圏の友人に日本を案内するとき、お城や劇場、美術館を訪れたり、伝統工芸等のお土産を買ったりすると思います。そうしたものは、なぜ、どのように生まれたのでしょうか？そしてなぜ、それがその国「らしい」ものだったのでしょうか？

ドイツ語圏で大事にされてきた「文化」と日本が大事にしてきた「文化」の共通点、相違点はどこにあるのでしょうか？彼らは何を考えて、それらを「大事」だと思ってきたのでしょうか？

芸術や文化を軸として、日本とドイツ語圏の「社会」と「文化」の概念的・制度的な違いを一緒に発見してゆきましょう！

到達目標

芸術、文化、政策に関する専門的なドイツ語を読み、理解できるようになるとともに、日本の似たような状況と比較をすることで、語の辞書的対比ではなく、意味内容の違いを理解し、地域間の相違を発見し、自分なりに日独の芸術文化について、その歴史的・政治的背景を踏まえて説明できるようになることを到達目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、受講生の関心・希望の調査
第2回	発表テーマ、グループの決定。文献や資料についての説明。
第3回	バイエルンの文化的遺産
第4回	ヴィッテルスバッハ家の人々
第5回	「芸術王国」とその時代背景－何のための芸術文化振興だったのか？
第6回	ドレスデンの文化的遺産
第7回	アウグスト2世とその時代－何のための芸術文化振興だったのか？
第8回	プロイセンの文化的遺産
第9回	フリードリヒ2世とその時代－何のための芸術文化振興だったのか？
第10回	市民の台頭－シュテーデルを例に
第11回	ドイツ編まとめ：時代背景・地域・芸術振興の特徴の整理と議論
第12回	日本の文化的遺産
第13回	日本における芸術振興(江戸時代)
第14回	日本における芸術振興(明治維新と政府)－ドイツと比較して何が分かるか？
第15回	授業の総括－どのような「芸術文化」が、なぜ振興されるのか？

授業計画コメント

受講生の関心に応じて、内容や順番が変わることもあります。

授業方法(対面授業の場合)

Zoomによるリアルタイム授業を予定しています。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomによるリアルタイム授業を行います(感染状況の改善により、大学全体のルールに応じて、教室からの対面、ハイフレックス型の授業に変更される場合があります)。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にLMSを通じて、講読する資料を配付、あるいは、授業時に説明しますので、予習をしてから参加してください。ドイツ語の資料の予習時間は平均しておよそ2時間程度です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		

学年末試験(第2学期)

中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは期末のみです。課題は、発表のテーマに関するもので、締切や分量は、授業時に説明します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350302106	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(6)		
副題	日独文化政策から見る「文化」と「社会」		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	秋野 有紀		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 1時限 遠隔授業		

授業概要

第1学期の内容を踏まえて、それらが現代のドイツ語圏と日本では、どのような存在となっているのかを読み解いていきます(第2学期は、現代を扱うので、単独の受講も可。オーストリアよりはドイツを中心に扱います)。

創設者の時代を経て、現在もみなさんが観光で訪れることのできるものを、なるべく扱っていきます。それらは、現代の日独の社会では、誰が、なぜ、どのように支えているのでしょうか？現代になって新たに誕生している芸術や文化には、どのような特徴があるのでしょうか？そしてそれは、なぜなのでしょう？

現代の日独文化政策を比較することで意外な発見が浮かび上がってくるのは、気持ちを持った生き物のように面白いドイツの政治の突っ込みどころの多さかもしれませんし、みなさんが知っているつりの日本の見えてなかった後ろ姿かもしれません。

到達目標

芸術、文化、政策に関する専門的なドイツ語を読み、理解できるようになるとともに、日本の似たような状況と比較をすることで、語の辞書的対比ではなく、意味内容の違いを理解し、地域間の相違を発見し、自分なりに日独の芸術文化について、その歴史的・政治的背景を踏まえて説明できるようになることを到達目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、受講生の関心・希望の調査。文献や資料についての説明。テーマの選定。
第2回	現代ドイツの文化政策の特徴と原則―「文化国家」というタブー
第3回	バイエルン州の文化的遺産と今日の文化創造活動
第4回	バイエルン州の文化政策
第5回	ザクセン州の文化的遺産と今日の文化創造活動
第6回	ザクセン州の文化政策
第7回	ベルリン都市州/ブランデンブルク州の文化的遺産と今日の文化創造活動
第8回	ベルリン都市州/ブランデンブルク州の文化政策
第9回	フランクフルト・アム・マイン市の文化政策と今日の文化創造活動
第10回	ドクメンタとフェアミットルンク
第11回	対外文化政策―ゲーテ・インスティトゥートとは何か？
第12回	日独の文化支出比較から見る日本の文化政策の特徴―主要国との比較も兼ねて
第13回	コロナ禍ドイツの文化支援と政治家たちの発言から見る―「文化」と「社会」
第14回	今日の政策トレンド(観光・経済・安全保障・地方創生)と文化政策―芸術文化はなぜ振興されるのか？パトロンたちの時代と私たちの現代
第15回	授業の総括―ドイツ社会における文化/日本社会における文化

授業計画コメント

受講生の関心に応じて、内容や順番が変わることがあります。

授業方法(対面授業の場合)

Zoomによるリアルタイム授業を予定しています。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomによるリアルタイム授業を行います(感染状況の改善により、大学全体のルールに応じて、教室からの対面、ハイフレックス型の授業に変更される場合があります)。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にLMSを通じて、講読する資料を配付、あるいは、授業時に説明しますので、予習をしてから参加してください。ドイツ語の資料の予習時間は平均しておよそ2時間程度です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		

学年末試験(第2学期)

中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは期末のみです。課題は、発表のテーマに関するもので、締切や分量は、授業時に説明します。

教科書

地域主権の国ドイツの文化政策: 人格の自由な発展と地方創生のために,藤野一夫/秋野有紀/マティアス・T・フォークト(編著),美学出版,電子,2017,B09NR1KYPZ

「文化国家」と文化的生存配慮,秋野有紀,美学出版,2019,4902078546

芸術と環境—劇場制度・国際交流・文化政策,伊藤裕夫/藤井慎太郎(編),論創社,2012,4846011283

教科書コメント

記載されている教科書は、内容を参照するために使用する章がありますが、購入する必要はありません。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350303101	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(1)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Zeit und Zeitgefühl", "Männer - Frauen - Paare" und "Schule". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl"
第2回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Zeit und Lebenszeit)
第3回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Die Geschichte des Brandenburgertors)
第4回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Reiseführer)
第5回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Zeitungstext)
第6回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Gedicht von Goethe)
第7回	Einführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare"
第8回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Rollenklischees)
第9回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Partnerschaft)
第10回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Das 4 -Ohren-Modell der Kommunikation)
第11回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Zeitschriftenartikel)
第12回	Einführung Themenkreis "Schule und lernen"
第13回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Schule und Schulsystem in Deutschland)
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

授業方法(対面授業の場合)

Seminar im Klassenzimmer

授業方法(遠隔授業の場合)

Online-Teaching

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)3とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350303102	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(2)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Schule", "Verhaltensregeln" und "Migration". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Berufe in der Schule)
第2回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Bildungswege)
第3回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Lernnote)
第4回	Einführung Themenkreis "Verhaltensregeln"
第5回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Pleiten, Pech und Pannen 1)
第6回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Pleiten, Pech und Pannen 2)
第7回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Knigge interkulturell)
第8回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Konflikte)
第9回	Einführung Themenkreis "Migration"
第10回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Ein- und Auswanderungsland Deutschland)
第11回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Migrationsgründe)
第12回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Auswanderungsgeschichten)
第13回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Film "Solino")
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

授業方法(対面授業の場合)

Seminar im Klassenzimmer

授業方法(遠隔授業の場合)

Online-Teaching

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)4とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350303103	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(3)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Alltagsprobleme", "Arbeit im Wandel" und "Klima und Umwelt". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Alltag"
第2回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (auf der Bank / bei der Polizei)
第3回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Stress im Beruf: Ursachen)
第4回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Stress im Beruf: Strategien)
第5回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Lachen ist gesund)
第6回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Zeitschriftenartikel / Sprichwörter)
第7回	Einführung Themenkreis "Arbeit im Wandel"
第8回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Geschichte einer Region kennenlernen)
第9回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Ruhrgebiet)
第10回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Arbeitsunfälle)
第11回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Zeitschriftenartikel)
第12回	Einführung Themenkreis "Klima und Umwelt"
第13回	Fortführung Themenkreis "Klima und Umwelt" (Klimawandel)
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

授業方法(対面授業の場合)

Seminar im Klassenzimmer

授業方法(遠隔授業の場合)

Online-Teaching

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)1とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350303104	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(4)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Klima", "Generation" und "Europa". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Fortführung Themenkreis "Klima" (Umweltprobleme)
第2回	Fortführung Themenkreis "Klima" (UN-Klimareport)
第3回	Fortführung Themenkreis "Klima" (Zeitungs- und Onlineartikel)
第4回	Einführung Themenkreis "Generationen"
第5回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Kindheit, Jugend, Alter)
第6回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Wohnformen im Alter)
第7回	Einführung Themenkreis "Generationen" (Kinderträume)
第8回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Romanauszug: "Die blauen und die grauen Tage")
第9回	Einführung Themenkreis "Europa"
第10回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Wir sind Europa!)
第11回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Die Europäische Union)
第12回	Einführung Themenkreis "Europa" (Euro-Krise)
第13回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Europa-Quiz)
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

授業方法(対面授業の場合)

Seminar im Klassenzimmer

授業方法(遠隔授業の場合)

Online-Teaching

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)(2)とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350304101	科目ナンバリング	035B502
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)では教科書の奇数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)では偶数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung
第2回	Lektion 1 : Freunde (Lesen)
第3回	Lektion 1 : Freunde (Grammatik)
第4回	Lektion 1 : Freunde (Hören)
第5回	Lektion 1 : Freunde (Schreiben)
第6回	Lektion 3 : Medien (Lesen)
第7回	Lektion 3 : Medien (Grammatik)
第8回	Lektion 3 : Medien (Hören)
第9回	Lektion 3 : Medien (Schreiben)
第10回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Lesen)
第11回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Grammatik)
第12回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Hören)
第13回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Schreiben)
第14回	Referate zu selbst gewählten Themen
第15回	Evaluation

授業方法(対面授業の場合)

Seminar im Klassenzimmer

授業方法(遠隔授業の場合)

Online-Teaching

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

教科書

Sicher ! aktuell B2.1. Kursbuch- und Arbeitsbuch., Michaela Perlmann-Balme / Susanne Schwalb, Hueber Verlag, 2018, 978-3-19-601207-1

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350304102	科目ナンバリング	035B502
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)では教科書の奇数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)では偶数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung
第2回	Lektion 7 : Beziehungen (Lesen)
第3回	Lektion 7 : Beziehungen (Grammatik)
第4回	Lektion 7 : Beziehungen (Hören)
第5回	Lektion 7 : Beziehungen (Schreiben)
第6回	Lektion 9 : An der Uni (Lesen)
第7回	Lektion 9 : An der Uni (Grammatik)
第8回	Lektion 9 : An der Uni (Hören)
第9回	Lektion 9 : An der Uni (Schreiben)
第10回	Lektion 11 : Gesundheit (Lesen)
第11回	Lektion 11 : Gesundheit (Grammatik)
第12回	Lektion 11 : Gesundheit (Hören)
第13回	Lektion 11 : Gesundheit (Schreiben)
第14回	Referate zu selbst gewählten Themen
第15回	Evaluation

授業方法(対面授業の場合)

Seminar im Klassenzimmer

授業方法(遠隔授業の場合)

Online-Teaching

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

教科書

Sicher ! aktuell B2.2. Kursbuch- und Arbeitsbuch., Michaela Perlmann-Balme / Susanne Schwalb, Hueber Verlag, 2018, 978-3-19-621207-5

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350304103	科目ナンバリング	035B502
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)では教科書の奇数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)では偶数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung
第2回	Lektion 2 : In der Firma (Lesen)
第3回	Lektion 2 : In der Firma (Grammatik)
第4回	Lektion 2 : In der Firma (Hören)
第5回	Lektion 2 : In der Firma (Schreiben)
第6回	Lektion 4 : Nach der Schule (Lesen)
第7回	Lektion 4 : Nach der Schule (Grammatik)
第8回	Lektion 4 : Nach der Schule (Hören)
第9回	Lektion 4 : Nach der Schule (Schreiben)
第10回	Lektion 6 : Städte erleben (Lesen)
第11回	Lektion 6 : Städte erleben (Grammatik)
第12回	Lektion 6 : Städte erleben (Hören)
第13回	Lektion 6 : Städte erleben (Schreiben)
第14回	Referate zu selbst gewählten Themen
第15回	Evaluation

授業方法(対面授業の場合)

Seminar im Klassenzimmer

授業方法(遠隔授業の場合)

Online-Teaching

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

教科書

Sicher ! aktuell B2.1, Kurs- und Arbeitsbuch, Michaela Perlmann-Balme / Susanne Schwalb, Hueber Verlag, 2018, 978-3-19-601207-1

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350304104	科目ナンバリング	035B502
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)では教科書の奇数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)では偶数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung
第2回	Lektion 8 : Ernährung (Lesen)
第3回	Lektion 8 : Ernährung (Grammatik)
第4回	Lektion 8 : Ernährung (Hören)
第5回	Lektion 8 : Ernährung (Schreiben)
第6回	Lektion 10 : Service (Lesen)
第7回	Lektion 10 : Service (Grammatik)
第8回	Lektion 10 : Service (Hören)
第9回	Lektion 10 : Service (Schreiben)
第10回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Lesen)
第11回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Grammatik)
第12回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Hören)
第13回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Schreiben)
第14回	Referate zu selbst gewählten Themen
第15回	Evaluation

授業方法(対面授業の場合)

Seminar im Klassenzimmer

授業方法(遠隔授業の場合)

Online-Teaching

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課最後の理解度チェック課題により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

教科書

Sicher ! aktuell B2.2. Kursbuch- und Arbeitsbuch., Michaela Perlmann-Balme / Susanne Schwalb, Hueber Verlag, 2018, 978-3-19-621207-5

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350305101	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(1)		
副題	ドイツ語聞き取り理解		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 遠隔授業		

授業概要

外国語学習では、話す、聞く、読む、書くの4技能を身につけることが最終的な目標です。本演習では、聞き取り理解(Hörverständnis)の能力を高めることを目的とします。一部の人は、外国語の聞き取りは、「耳を鍛えることでできるようになる」とか「ただ聞いているだけで力がつく」と誤解しているようです。実際には、まず、該当の外国語の発音が自分でできることが前提です。そして、その発音と意味が結びついて、聞いた時に「内容が理解できる」ところまで進む必要があります。そのためには、文法的知識も必要です。

本演習では、実際にドイツ語の音声を聞いて、書きとり(ディクテーション)を行うことに集中します。もちろん、聞いた結果、その内容の理解ができなければ無意味です。ただし、日本語に翻訳することとドイツ語の聞き取り理解は同じではありません。ドイツ語を聞いて、ドイツ語で内容を理解できることをめざします(日本語は必要に応じて補助的に用います)。

到達目標

- ・ドイツ語の文章を聞いて、その内容をドイツ語で理解できるようになる。
- ・聞き取ったドイツ語の文章をほぼ同じスピードで、同じようなイントネーションで再生できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、授業の準備など)
第2回	会話文の聞き取り(1)
第3回	会話文の聞き取り(2)
第4回	会話文の聞き取り(3)
第5回	スピーチの聞き取り(1)
第6回	スピーチの聞き取り(2)
第7回	スピーチの聞き取り(3)
第8回	スピーチの聞き取り(4)
第9回	朗読の聞き取り(1)
第10回	朗読の聞き取り(2)
第11回	朗読の聞き取り(3)
第12回	朗読の聞き取り(4)
第13回	朗読の聞き取り(5)
第14回	復習
第15回	到達度確認

授業計画コメント

参加者には、B1レベル(明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できる)のドイツ語力があることを前提とします。

授業方法(対面授業の場合)

基本的には遠隔授業で行う予定です。対面式授業が許可された場合は、この授業は演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomによる同時配信型で行います。教材はLMS(Moodle)で提供する予定です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は不要です。各自、内容を理解できるところまでドイツ語の音声を繰り返し聞くことが復習として求められます(60分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	25 %	聞き取り理解に関する小テストを評価

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席、積極的な授業参加などを評価
その他(備考欄を参照)	25 %	音声ファイルの評価

成績評価コメント

参加者は、各自自分の短所を見極め、それを克服することが求められます(自己評価)。また、聞き取り理解が終わった後で、各自、自分で発音した音声ファイルを提出してもらいます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された音声ファイルに対しては、LMS(Moodle)でコメントを返します。

教科書コメント

教科書はありません。パブリックドメインの音声を使います。

参考文献コメント

参考文献はありません。

履修上の注意

- ・原則的に、2学期開講の「コミュニケーション演習(上級)」(2)を履修することが求められます。
- ・参加者はB1レベルのドイツ語力が必要です(資格を持っていなくても、実力があれば大丈夫です)。

その他

- ・ドイツ語が好きで、積極的に学ぶ姿勢のある学生を希望します。
- ・授業に関する連絡は、G-Port および Moodle を通じて行います。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350305102	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(2)		
副題	ドイツ語聞き取り理解		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 遠隔授業		

授業概要

本演習では、1学期に引き続き、聞き取り理解 (Hörverständnis) の能力を高めることを目的とします。一部の人は、外国語の聞き取りは、「耳を鍛えることでできるようになる」とか「ただ聞いているだけで力がつく」と誤解しているようです。実際には、まず、該当の外国語の発音が自分でできることが前提です。そして、その発音と意味が結びついて、聞いた時に「内容が理解できる」ところまで進む必要があります。そのためには、文法的知識も必要です。本演習では、実際にドイツ語の音声を聞いて、書きとり(ディクテーション)を行うことに集中します。もちろん、聞いた結果、その内容の理解ができなければ無意味です。ただし、日本語に翻訳することとドイツ語の聞き取り理解は同じではありません。ドイツ語を聞いて、ドイツ語で内容を理解できることをめざします(日本語は必要に応じて補助的に用います)。

到達目標

- ・ドイツ語の文章を聞いて、その内容をドイツ語で理解できるようになる。
- ・聞き取ったドイツ語の文章をほぼ同じスピードで、同じようなイントネーションで再生できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、授業の準備など)
第2回	会話文の聞き取り(1)
第3回	会話文の聞き取り(2)
第4回	会話文の聞き取り(3)
第5回	スピーチの聞き取り(1)
第6回	スピーチの聞き取り(2)
第7回	スピーチの聞き取り(3)
第8回	スピーチの聞き取り(4)
第9回	ニュースの聞き取り(1)
第10回	ニュースの聞き取り(2)
第11回	ニュースの聞き取り(3)
第12回	ニュースの聞き取り(4)
第13回	ニュースの聞き取り(5)
第14回	復習
第15回	到達度確認

授業計画コメント

参加者には、B1レベル(明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できる)のドイツ語力があることを前提とします。

授業方法(対面授業の場合)

基本的には遠隔授業で行う予定です。対面式授業が許可された場合は、この授業は演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomによる同時配信型で行います。教材はLMS(Moodle)で提供する予定です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は不要です。各自、内容を理解できるところまでドイツ語の音声を繰り返し聞くことが復習として求められます(60分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	25 %	聞き取り理解に関する小テストを評価
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	出席、積極的な授業参加などを評価

成績評価コメント

参加者は、各自自分の短所を見極め、それを克服することが求められます(自己評価)。また、聞き取り理解が終わった後で、各自、自分で発音した音声ファイルを提出してもらいます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された音声ファイルに対しては、LMS(Moodle)でコメントを返します。

教科書コメント

教科書はありません。パブリックドメインの音声を使います。

参考文献コメント

参考文献はありません。

履修上の注意

- ・原則的に、2学期開講の「コミュニケーション演習(上級)」(2)を履修することが求められます。
- ・参加者はB1レベルのドイツ語力が必要です(資格を持っていなくても、実力があれば大丈夫です)。

その他

- ・ドイツ語が好きで、積極的に学ぶ姿勢のある学生を希望します。
- ・授業に関する連絡は、G-Port および Moodle を通じて行います。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350305103	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(3)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache und bietet ihnen die Möglichkeit, ihre Sprechfähigkeiten zu konsolidieren und zu erweitern. Der Unterricht wird auf Deutsch abgehalten, kurze Interventionen auf Japanisch sind jedoch möglich.

到達目標

Die Teilnehmer sollen in Partner- und Gruppenarbeit Funktion und Einsatz von Redemitteln erlernen und ihre variablen Anwendungsmöglichkeiten ausprobieren können. Die Studenten erhalten jeweils ausreichend Zeit, das Erlernete praktisch anzuwenden und je nach Leistungsstärke und Eigeninteresse in Partner- und Gruppenarbeit zu variieren. Ziel ist es, die allgemeine Sprech- und Kommunikationsfähigkeit der Teilnehmer zu verbessern.

Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Bildbeschreibung I
第2回	Bildbeschreibung II
第3回	Wegbeschreibung und Orientierung
第4回	Personenbeschreibung I
第5回	Personenbeschreibung II + Hypothesen
第6回	Sachbeschreibung (Formen, Farben, Materialien)
第7回	Abstrakte Bilder (Relativsätze, Vergleiche, Konjunktiv)
第8回	Schaubilder - Diagramme - Statistiken I
第9回	Schaubilder - Diagramme - Statistiken II
第10回	TestDAF Mündliche Prüfung I
第11回	TestDAF Mündliche Prüfung II
第12回	Themenerörterung I
第13回	Themenerörterung II
第14回	Diskussion und Fragen I
第15回	Diskussion und Fragen II

授業方法(対面授業の場合)

Die Arbeitsmaterialien und Aufgaben werden vom Kursleiter bereitgestellt und erläutert. Häufig gibt es eine kleinere Vorübungen oder schriftliche Aufgaben, die in Einzel- oder Partnerarbeit erledigt werden, bevor die Teilnehmer dann in Partner- oder Gruppenarbeit den Einsatz bestimmter Redemittel jeweils bezogen auf konkrete Aufgabenstellungen (etwa Bildbeschreibung oder Erläuterung einer Statistik) einüben können. Das Einüben der Redemittel wird gelegentlich mit wechselnden Sprechpartnern wiederholt.

授業方法(遠隔授業の場合)

Zu Beginn des Unterrichts erläutert der Kursteilnehmer in den Instruktionen (auf manaba!) die Aufgabenstellung sowie ggf. Grammatiken und Redemittel, die für die Bearbeitung der Aufgaben notwendig sind. Die Teilnehmer machen kleinere Vorübungen und schriftliche Aufgaben, die später in der Zoom Sitzung oder gleich in Breakout Sessions besprochen und korrigiert werden. Die Zoom Sitzung besteht in der Regel aus zwei oder drei Arbeitsschritten, die die Teilnehmer in Breakout Sessions in der Gruppe in wechselnder Zusammensetzung bearbeiten. Die Besprechung der Ergebnisse erfolgt entweder am Ende mit allen Teilnehmern oder über Lösungsskizzen direkt in den Breakout Räumen, die vom Kursleiter regelmäßig aufgesucht werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts werden die Teilnehmer gelegentlich dazu angehalten, eigenständig Übungsmaterial für die nächste Sitzung zu beschaffen.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		

学年末試験(第2学期)

中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350305104	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(4)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache und bietet ihnen die Möglichkeit, ihre Sprechfähigkeiten zu konsolidieren und zu erweitern. Während im Sommersemester eher bestimmte Strukturen und Aufgabentypen im Vordergrund stehen, die Bestandteil von üblichen Deutschprüfungen sind (TestDAF, 独検 etc.), liegt der Fokus im Wintersemester auf diversen Themenfeldern, die teilweise von der Teilnehmern selbst bestimmt werden können. Der Unterricht wird auf Deutsch abgehalten, kurze Interventionen auf Japanisch sind jedoch möglich.

到達目標

Die Teilnehmer sollen in Partner- und Gruppenarbeit Funktion und Einsatz von Redemitteln erlernen und ihre variablen Anwendungsmöglichkeiten ausprobieren können. Die Studenten erhalten jeweils ausreichend Zeit, das Erlernete praktisch anzuwenden und je nach Leistungsstärke und Eigeninteresse in Partner- und Gruppenarbeit zu variieren. Ziel ist es, die allgemeine Sprech- und Kommunikationsfähigkeit der Teilnehmer zu verbessern. Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Ferien (Reden über die Vergangenheit)
第2回	Familie (Familienbezeichnungen; Possessivartikel)
第3回	Gegenstände (Adjektive; Materialbezeichnungen)
第4回	Hobbys, Talente (Graduierungen)
第5回	Musik (Kritik)
第6回	Träume, Trauma (Vorgangsbeschreibungen)
第7回	Medien (Biografien)
第8回	Erziehung (erklären – konkretisieren – eingrenzen)
第9回	Geld, Wirtschaft (Bildanalyse und Statistik)
第10回	Freie Themen I
第11回	Freie Themen II
第12回	Freie Themen III
第13回	Freie Themen IV
第14回	Freie Themen V
第15回	Diskussion und Fragen

授業方法(対面授業の場合)

Die Arbeitsmaterialien und Aufgaben werden in den Stunden 1-10 vom Kursleiter bereitgestellt und erläutert. Die Teilnehmer sind jedoch an der Vorbereitung beteiligt, indem sie eigenständig oder in Partnerarbeit Fragen, Redemittel und themenbezogenes Vokabular erarbeiten, die sie später im Unterricht einsetzen.

Die Gesprächsübungen teilen sich im Wesentlichen in Partnerinterviews und Gruppendiskussionen auf. Dies überlässt den Teilnehmern ein hohes Maß an Selbststeuerung (auch in Bezug auf Korrektur und Feedback des Kursleiters). Die Teilnehmer wählen selbst die Themen der Stunde 11-14 und bereiten entsprechende Arbeitsmaterialien vor.

授業方法(遠隔授業の場合)

Die Arbeitsmaterialien und Aufgaben werden in den Stunden 1-10 vom Kursleiter bereitgestellt und erläutert. Die Teilnehmer sind jedoch an der Vorbereitung beteiligt, indem sie eigenständig oder in Partnerarbeit Fragen, Redemittel und themenbezogenes Vokabular erarbeiten, die sie später in den Gesprächsübungen in Breakout Räumen der Zoom Sitzung einsetzen.

Die Gesprächsübungen teilen sich im Wesentlichen in Partnerinterviews und Gruppendiskussionen auf. Dies überlässt den Teilnehmern ein hohes Maß an Selbststeuerung (auch in Bezug auf Korrektur und Feedback des Kursleiters). Die Teilnehmer wählen selbst die Themen der Stunde 11-14 und bereiten entsprechende Arbeitsmaterialien vor.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts werden die Teilnehmer gelegentlich dazu angehalten, eigenständig Übungsmaterial für die nächste Sitzung zu beschaffen.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350305105	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(5)		
副題	正しいドイツ語を書く訓練		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

この授業では、初級文法を復習しつつ、正しいドイツ語を書く訓練をします。ドイツ語の文を作るためには何が分かっているか、分からないかをやさしく解説していきます。語形変化などの形のみを練習するのではなく、ドイツ語の語感を身につけていきます。

到達目標

表現意図に応じた正しいドイツ語の文を作れるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入： 授業の進め方と一般的な注意
第2回	第1課 まずは主語と定動詞を決める
第3回	第1課 自己紹介の練習
第4回	第2課 ドイツ語らしい語順
第5回	第2課 趣味を言う練習
第6回	第3課 1課2課の小テスト・否定文の作り方
第7回	第3課 好き嫌いを言う練習
第8回	第4課 冠詞を正しく使おう
第9回	第4課 身体の調子や病気について言う練習
第10回	第5課 3課4課の小テスト・情報の流れを考える
第11回	第5課 子どもの時のことを語る練習
第12回	第6課 空間の位置関係の表し方
第13回	第6課 行き方を説明する練習
第14回	5課6課の小テスト・まとめと復習
第15回	到達度確認

授業計画コメント

教科書として『ドイツ語を書いてみよう!』(清野智昭著、白水社)を用い、その前半の6課を扱います。後期開講の「コミュニケーション演習(上級)(6)」で教科書の後半を扱います。

授業方法(対面授業の場合)

課題を解説しつつ、グループやペアでの練習、respon等も用いた双方向の実習で理解を深めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔で行う場合には、ズームを使った同時配信型の授業とします。WebClassで資料のやり取りを行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習として、次回の授業で扱う部分の例文を訳し、期限までに提出します。課題の難易度と本人のドイツ語力によりますが、1時間～2時間の時間が必要になります。復習は、授業で訳し、確認した文を暗記して使えるようにします。1時間程度の時間が必要です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	60 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書2課分ずつ小テストを実施していき、計3回の合計点を成績評価の60%とします。この小テストでは正確にドイツ語文を作れる

かを評価します。期末にレポートを課し、特定のテーマについてドイツ語で文章を書いてもらい、これを20%の成績にします。このレポートでは、正しいドイツ語が使えているか、内容に即した表現ができているかを評価の対象とします。平常点(20%)では、出席はもちろんのこと、毎回の課題をきちんと提出しているか、授業中、積極的に参加しているかを評価の対象とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については毎回の授業で取り扱う。レポートについてはコメントを付し、提出者にフィードバックする。

教科書

ドイツ語を書いてみよう！[改訂版],清野智昭,白水社,2016,978-4-560-06417-7

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

履修上の注意

後期開講の「コミュニケーション演習(上級)(6)と合わせて履修することが望ましい。人数制限は設けないが、第1回目の授業に必ず参加すること(参加しなかった場合は参加を断ることがある)。

その他

課題をきちんとこなすことはもちろん、授業中積極的に疑問点を質問し、また、自分でも調べることを要望します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350305106	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(6)		
副題	正しく論理的なドイツ語を書く訓練		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

この授業では、前期開講のコミュニケーション演習(上級)(5)に引き続き、初級文法を復習しつつ、正しいドイツ語を書く訓練をします。ドイツ語の文を作るためには何が分かっているかをやさしく解説していきます。語形変化などの形のみを練習するのではなく、ドイツ語の語感を身につけていきます。また、ドイツ語で論文を執筆するために必要な論理的な文章を書く力を養います。

到達目標

文法的に正しく、論理的なドイツ語文章を書けるようになるのが目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入：授業の進め方と一般的な注意
第2回	第7課 前置詞を使いこなそう
第3回	第7課 時間を表現する練習(1)
第4回	第8課 視点の取り方
第5回	第8課 時間を表現する練習(2)
第6回	第9課 第7課8課の小テスト・人と物の表し方
第7回	第9課 意見を述べる練習
第8回	第10課 話法でニュアンスを付け加える
第9回	第10課 予定を言う練習
第10回	第11課 9課10課の小テスト・名詞化する
第11回	第11課 論理的に書く練習
第12回	第12課 ドイツ語らしい論理展開を心がける
第13回	第12課 論理的に話す練習
第14回	11課12課の小テスト・まとめと復習
第15回	到達度確認

授業計画コメント

教科書として『ドイツ語を書いてみよう!』(清野智昭著、白水社)を用い、その後半の6課を扱います。

授業方法(対面授業の場合)

課題の解説を行いつつ、グループやペアでの練習やresponを用いた双方向の実習で理解を深めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業の場合はズームを用いた同時配信型の授業とします。WebClassを使って資料や課題のやり取りを行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習として、次回の授業で扱う部分の例文を訳し、期限までに提出します。課題の難易度と本人のドイツ語力によりますが、1時間～2時間の時間が必要になります。復習は、授業で訳し、確認した文を暗記して使えるようにします。1時間程度の時間が必要です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	60 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書2課分ずつ小テストを実施していき、計3回の合計点を成績評価の60%とします。この小テストでは正確にドイツ語文を作れるかを評価します。期末にレポートを課し、特定のテーマについてドイツ語で文章を書いてもらい、これを20%の成績にします。このレポートでは、正しいドイツ語が使えているか、内容に即した表現ができているかを評価の対象とします。平常点(20%)では、出席はもちろんのこと、毎回の課題をきちんと提出しているか、授業中、積極的に参加しているかを評価の対象とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については毎回の授業で取り扱う。レポートについてはコメントを付し、提出者にフィードバックする。

教科書

ドイツ語を書いてみよう！[改訂版],清野智昭,白水社,2016,978-4-560-06417-7

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

履修上の注意

前期開講の「コミュニケーション演習(上級)(5)と合わせて履修することが望ましい。人数制限は設けないが、第1回目の授業に必ず参加すること(参加しなかった場合は参加を断ることがある)。

その他

課題をきちんとこなすことはもちろん、授業中積極的に疑問点を質問し、また、自分でも調べることを要望します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350306101	科目ナンバリング	035B302
講義名	アカデミック・ライティング演習(1)		
副題	Akademisches Schreiben		
英文科目名	Seminar of Academic Writing		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 1時限 対面授業		

授業概要

Dieser Kurs gibt den Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung sowohl in das akademische bzw. wissenschaftliche als auch das dafür wichtige kreative Schreiben. Es werden weiter Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens, der Seminarpräsentation und der Rhetorik vermittelt sowie Diskussions- und Argumentationstechniken erarbeitet. Die Studierenden haben die Gelegenheit, die Arbeitsprojekte ihrer Abschlussarbeiten ausführlich darzustellen und mit den anderen Studierenden und dem Seminarleiter zu diskutieren.

到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und Schreibens unter Berücksichtigung kreativer Schreibprozesse. Es werden grundlegende Diskussions- und Präsentationstechniken vermittelt. Es sollen zudem Reflexionen über die eigene wissenschaftliche Arbeit ausgelöst werden.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung in die Thematik
第2回	Wissenschaftliches und kreatives Schreiben I
第3回	Wissenschaftliches und kreatives Schreiben II – Cluster Bildung
第4回	Interpretationscluster
第5回	Bibliografie, Recherche, wissenschaftliches Arbeiten
第6回	Wissenschaftliches Arbeiten
第7回	Wissenschaftliches Arbeiten
第8回	Wissenschaftliches Arbeiten
第9回	Titelgebung
第10回	Argumentation
第11回	Grundlagen der Rhetorik
第12回	Grundlagen der Rhetorik
第13回	Anwendungen der Rhetorik
第14回	Abschlussprüfung (Test)
第15回	Abschlussdiskussion

授業方法(対面授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer, Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

授業方法(遠隔授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit in break-out-rooms, Impulsanregungen durch die Teilnehmer, Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60 Minuten wöchentlich zur Seminarvorbereitung notwendig.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll eine Kurzpräsentation halten, regelmäßig am Seminar teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Am Ende des Semesters wird ein für alle verbindlicher Test geschrieben. Die Leistungsbewertung setzt sich zusammen aus dem Referat (30%), der Diskussionsbeteiligung (30%) und dem Abschlusstest (40%).

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll seine bzw. ihre Abschlussarbeit in einem ca. 45-minütigen Referat vorstellen (einschließlich einer Semindiskussion). Weiter ist die regelmäßige Seminarteilnahme und die Beteiligung an den Diskussionen Voraussetzung. Die Leistungsbewertung setzt sich aus dem Referat (50%) und der Diskussionsbeteiligung (50%) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht ausführlich mit jedem Teilnehmer und jeder Teilnehmerin über sein bzw. ihr Referat, vor und nach der Präsentation. Weiter kann über das Diskussionsverhalten und das Testergebnis gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350306102	科目ナンバリング	035B302
講義名	アカデミック・ライティング演習(2)		
副題	Akademisches Schreiben II		
英文科目名	Seminar of Academic Writing		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 1時限 対面授業		

授業概要

Dieser Kurs gibt den Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung sowohl in das akademische bzw. wissenschaftliche als auch das dafür wichtige kreative Schreiben. Es werden weiter Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens, der Seminarpräsentation und der Rhetorik vermittelt sowie Diskussions- und Argumentationstechniken erarbeitet. Die Studierenden haben die Gelegenheit, die Arbeitsprojekte ihrer Abschlussarbeiten ausführlich darzustellen und mit den anderen Studierenden und dem Seminarleiter zu diskutieren.

到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und Schreibens unter Berücksichtigung kreativer Schreibprozesse. Es werden grundlegende Diskussions- und Präsentationstechniken vermittelt. Es sollen zudem Reflexionen über die eigene wissenschaftliche Arbeit ausgelöst werden.

授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der Ergebnisse vom vorigen Semester
第2回	Grundlagen der Seminarpräsentation
第3回	Grundlagen der Seminarpräsentation, Vortrag
第4回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第5回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第6回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第7回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第8回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第9回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第10回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第11回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第12回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第13回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第14回	Vorträge der Seminarteilnehmer / Seminarteilnehmerinnen (Abschlussarbeit)
第15回	Abschlussdiskussion

授業方法(対面授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer, Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

授業方法(遠隔授業の場合)

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit in break-out-rooms, Impulsanregungen durch die Teilnehmer, Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60 Minuten wöchentlich zur Seminarvorbereitung notwendig.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll eine Kurzpräsentation halten, regelmäßig am Seminar teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Am Ende des Semesters wird ein für alle verbindlicher Test geschrieben. Die Leistungsbewertung setzt sich zusammen aus dem Referat (30%), der Diskussionsbeteiligung (30%) und dem Abschlusstest (40%).

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll seine bzw. ihre Abschlussarbeit in einem ca. 45-minütigen Referat vorstellen (einschließlich einer Semindiskussion). Weiter ist die regelmäßige Seminarteilnahme und die Beteiligung an den Diskussionen Voraussetzung. Die Leistungsbewertung setzt sich aus dem Referat (50%) und der Diskussionsbeteiligung (50%) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht ausführlich mit jedem Teilnehmer und jeder Teilnehmerin über sein bzw. ihr Referat, vor und nach der Präsentation. Weiter kann über das Diskussionsverhalten und das Testergebnis gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U350307101	科目ナンバリング	035B503
講義名	ドイツ語圏インターンシップ・プログラム		
英文科目名	Intenrship Program in German speaking Countries		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 遠隔授業		

授業概要

ドイツ語圏の都市で、インターンシップを行う。

到達目標

- ・ドイツ語圏の社会において、実際にドイツ語を使って意思疎通ができるようになる。
- ・仕事においてドイツ語を使えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現地でのインターンシップ実習
第3回	現地でのインターンシップ実習
第4回	現地でのインターンシップ実習
第5回	現地でのインターンシップ実習
第6回	現地でのインターンシップ実習
第7回	現地でのインターンシップ実習
第8回	現地でのインターンシップ実習
第9回	現地でのインターンシップ実習
第10回	現地でのインターンシップ実習
第11回	現地でのインターンシップ実習
第12回	現地でのインターンシップ実習
第13回	現地でのインターンシップ実習
第14回	現地でのインターンシップ実習
第15回	中間報告
第16回	現地でのインターンシップ実習
第17回	現地でのインターンシップ実習
第18回	現地でのインターンシップ実習
第19回	現地でのインターンシップ実習
第20回	現地でのインターンシップ実習
第21回	現地でのインターンシップ実習
第22回	現地でのインターンシップ実習
第23回	現地でのインターンシップ実習
第24回	現地でのインターンシップ実習
第25回	現地でのインターンシップ実習
第26回	現地でのインターンシップ実習
第27回	現地でのインターンシップ実習
第28回	現地でのインターンシップ実習
第29回	現地でのインターンシップ実習
第30回	総括

授業方法(対面授業の場合)

現地で実践的に行われる。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔では行われない。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

実際に行う仕事の内容についてよく考えて、あらかじめドイツ語表現を調べておく(1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実際にインターンシップを行うにあたり生じた疑問に関して、その都度フィードバックを行う。

履修上の注意

受講希望者は、学科の指定するガイダンスに必ず出席し、受講登録をする前に必ず相談をすること。インターンシップを行うためには、最低でも Zertifikat Deutsch (ヨーロッパ言語共通参照枠 B1)の試験に合格しているか、あるいはそれ以上のドイツ語力が必要とされる。したがって、受講登録してもドイツ語能力が不足する場合にはインターンシップが許可されない場合がある。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>